平成10年度熊野灘臨海都市公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

道瀬遺跡（第２次）発掘調査報告

－北牟婁郡紀伊長島町道瀬所在－

２０００．３

三重県埋蔵文化財センター

序

三重県南部に位置する紀伊長島町は、豊かな自然に恵まれた風光明媚な所であり、熊野古道が通るなど歴史と関わりの深い地域であります。特に道瀬浦周辺は、熊野古道が唯一沿岸部を通る所でもあり、陸路と海路が接する重要な場所であります。昨年に行われた東紀州体験フェスタでは、多くの人々がこの熊野古道に訪れ、その関心の高さに驚かされました。また、三重県では志摩半島から東紀州にかけてサンベルト・ゾーン構想を行い、こうした豊かな自然や歴史文化を貴重な財産として充分に活用していきたいと考えております。

今回の発掘調査は、昨年度の第1次調査に引き続いて行われたものです。第1次調査では2基の中世の製塩炉が発見されました。これは全国的にも珍しいもので、東紀州の歴史に新たな1ページを書き加えたと言っても過言ではありません。今回の調査では古墳時代の土器が大量に出土しました。その中には、他の地域から持ち込まれた土器も多く見られ、ここに住んでいた人々が海を介して活発な交流を行っていたことがわかりました。

こうした調査の成果が、新たな歴史を作り上げていくものと考えます。しかし、本遺跡は地元の方々の地道な努力によって遺物が採集され、遺跡として認識されるようになったものであります。今回のように調査が行えたのも、ひとえに地元の方々の努力の結果といえます。従って、この調査成果は地域の共有財産として帰すべきものであることは言うまでもなく、調査成果が教育等の場でお役に立てば、文化財保護行政に従事する者として望外この上ない喜びであります。

なお、文化財保護法の精神を尊重され、協議から発掘調査に至るまで多大のご理解とご協力をいただいた三重県県土整備部の各関係機関の方々をはじめ、地元の方々には、ここに心からのお礼を申し上げます。

2000年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長　大井輿生

例　言

1．本書は三重県北牟婁郡紀伊長島町道瀬地内に所在する道瀬遺跡（第2次）の発掘調査報告書である。

2．調査は平成10年度熊野灘臨海都市公園整備事業（三浦・道瀬地区）に伴い、緊急調査を実施したものである。

3．調査費用は県土整備部まちづくり推進課が全額負担した。

4．調査体制は以下の通りである。

調査主体：三重県教育委員会

調査担当：三重県埋蔵文化財センター　調査第一課

技　師　新名　強

5．当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査第一課及び資料普及グループが行った。また、本書の執筆・編集については、新名が担当した。

6．須恵器模倣杯の類例調査では、小沢洋氏（君津郡市文化財センター）の多大なるご協力とご教示を得た。

7．挿図の方位は全て磁北を用いた。

8．本書で使用した都市計画図は紀伊長島町、事業計画図は三重県土木部（現：県土整備部）の提供による。

9．当報告書での遺構は、炉跡・焼土面を除き通番としている。また、番号の前には以下の略記号を用いている。

ＳＦ…炉跡・焼土面　　ＳＫ…土坑　　ＳＺ…落ち込み

10．用語については以下の通り統一した。

「杯」「坏」……「杯」

「塊」「碗」「椀」……「椀」

11．本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

12．スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本 文 目 次

Ⅰ　前言 …… 1
Ⅱ　遺構 …… 3
Ⅲ　遺物 …… 7
Ⅳ　結語 …… 27

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　遺跡周辺図 …… 3
第３図　落ち込み部土層断面図 …… 4
第４図　調査区平面図 …… 5
第５図　SF４・SK９・SK 14・土器集中部平面図、断面図 …… 6
第６～14図　遺物実測図 …… 11～19

表 目 次

第１～７表　遺物観察表 …… 20～26

図 版 目 次

図版１　遺構写真 …… 29
図版２～４　遺物写真 …… 30～32

Ⅰ 前　　言

1．調査の契機

道瀬遺跡は、三重県北牟婁郡紀伊長島町道瀬字新田に所在する周知の遺跡である。当遺跡は、これまでにも地元の研究者や文化財パトロール員の手によって遺物が採集されており、古くから製塩との関わりが指摘されていた。

熊野灘臨海都市公園整備事業に伴い遺跡に影響を及ぼすことが予想されたので、平成８年度に試掘調査を行い、古墳時代から中世にかけての遺構や遺物を確認した。これを受けて、県土木部（現県土整備部）との調整協議を行った結果、遺跡を保存するのは困難であるという結論に至り、やむを得ず本調査を実施することとなった。

2．調査の経過

調査は当事業により改変を受ける平面2,300㎡について行われた。このうち、工事進入路確保のため平成９年度に第１次調査として700㎡の調査が行われた。今回の調査は、残りの1,600㎡の部分について平成10年度に行われたものである。

事業地は防波堤のすぐ内側で、海岸線までは僅かに20m程である。かつては畑や果樹園が営まれていたが、調査直前には中低木の林や雑草の生い茂る荒地となっていた。

調査は中低木を伐開した後、重機にて包含層上面まで掘削を行い、包含層以下を人力により掘削した。調査期間は平成10年10月12日～12月25日である。

調査には、紀伊長島町道瀬・海野・長島・東長島に在住の方々に参加して頂いた。ここに記して感謝致します。

松葉　拓生　　濱口六花子　　東　　巌
坂本　峰雄　　坂本　秀子　　濱田　真代
濱口　八重　　坂本　正一　　東　美佐子
橋本　栄子　　濱口　睦子　　杉谷香千子
井谷　一郎　　井谷　友幸　　杉谷　りよ子
濱口　衡　　（敬称略）

第１図　遺跡位置図（１：50,000）

〔調査日誌抄〕

10月12日　ユニットハウス設営。

10月19日　重機掘削開始。焼土面SF４を確認。土師器・須恵器など多数出土。

10月21日　重機掘削終了。地区杭設定。

10月26日　作業員による作業の開始。

10月29日　炭溜まり土坑SK９を確認。

11月５日　調査区西側で落ち込みSZ10を確認。この段階では溝と認識。

11月９日　包含層よりバレス壺出土。

11月10日　調査区南部の表土直下で礫層を確認。

11月12日　落ち込みSZ10で須恵器・土師器が多量に出土。溝から落ち込みへ認識を改める。

11月13日　SZ10にトレンチを入れる。

11月19日　調査区南部の礫層を重機で除去。礫層下からも土器が多く出土。

11月１日　SF４を掘削。検出面直下に僅かな炭層が残るのみで、炉跡は確認できなかった。SK14・土器集中部を確認。

11月２日　土器集中部平面・立面図実測。

11月16日　落ち込み部の礫層を重機にて除去。

11月21日　調査区内等高線図作成。

11月22日　全景写真撮影。

11月25日　ユニットハウス撤去。調査終了。

（２）文化財保護法に関する諸通知

文化財保護法（以下、法）等にかかる諸通知は、以下により文化庁長官等宛に行っている。

・法第57条の３第１項（文化庁長官宛）
　平成10年６月９日付北建第220号（県知事通知）

・法第98条の２第１項（文化庁長官宛）
　平成11年１月11日付教生第1507号(県教育長通知)

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（尾鷲警察署長あて）
　平成11年１月27日付教生第８－45号（県教育長通知）

３．位置と歴史的環境

第２次調査は第１次調査に隣接して行われた調査であるため、ここでは簡単に記述する。詳しくは第１次調査の「位置と歴史的環境」を参照されたい[1]。

道瀬遺跡は道瀬浦のほぼ南端に位置しており、集落は北側に広がる。遺跡は、海を眼前に望む砂堆上にあり、標高は４ｍ程度である。砂堆は調査区の南側にある丘陵の付け根より北に向かって舌状に伸び、調査区北側を流れる小川で一旦途切れる。調査区の西側には低地部が広がっており、調査区内も堤防部分をピークとして西側に向かって緩やかに傾斜している。

道瀬遺跡の周辺では、二郷神社遺跡や豊浦神社遺跡、比後遺跡、海野遺跡、海山町大白遺跡、船越遺跡などで弥生時代から古墳時代にかけての土器が出土している。また周囲には、金環・直刀・合子などを出土したおまわき古墳[2]や須恵器片が出土した太地古墳、銀環・鉄刀などが出土した横城古墳[3]などの古墳があり、いずれも海岸近くに所在している。

道瀬遺跡の第１次調査では中世の製塩炉と土師片が確認されているが、古代末～中世にかけての製塩関連遺跡は、城ノ浜製塩遺跡や大名倉製塩跡など、紀伊長島町の海岸砂堆上に点在している。

第１次調査の成果

第１次調査では平安時代末から鎌倉時代の製塩炉２基と野外炉炉１基確認されている。製塩炉は2.5ｍ×２ｍ程度の楕円形を呈するもので、深さは0.6～0.4ｍ程度であった。ともに砂浜を掘りくぼめた中に黄色粘土で炉が構築されていた。炉周辺の砂は強く火を受けた影響で赤色に変色していた。

出土遺物は山茶椀などの中世のもののほか、弥生時代～古墳時代後期までのものも見られる。

また試掘調査では土師器壺や台付甕、須恵器杯など古墳時代のものが出土しており、第２次調査では古墳時代のものを中心に中世の製塩炉などの存在が予想された。

註

（１）大川勝宏・萩原義彦『道瀬遺跡（第１次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1998

（２）関西大学文学部考古学研究室編『紀伊半島の文化史的研究－考古学編－』、1992

（３）伊藤良ほか『海山町史』1984

Ⅱ 遺　構

1．基本層序

調査地は砂浜からやや微高地になった砂堆上にあり、かつては果樹園等が営まれていた所である。

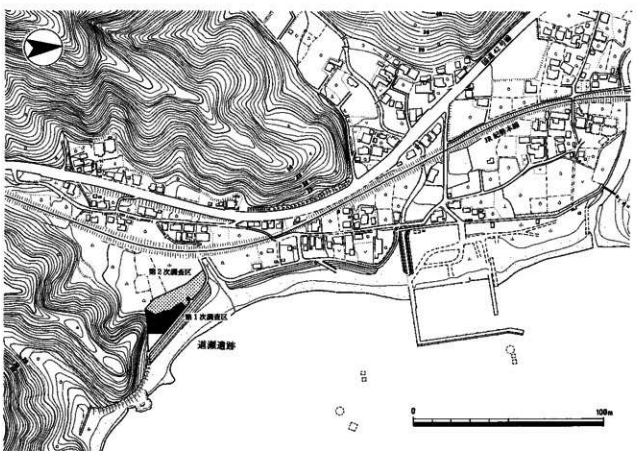
基本層序は表土下10～25cm程度で黒褐色砂質土の包含層を確認した。この包含層は20～50cm程堆積しており、その下層には遺物を含まない黄色砂質土が堆積している。遺構はこの黄色砂質土上面で検出した。調査区の中央から西側にかけては１m以上も急激に落ち込むなど、かつては起伏の激しい地形であったことが窺える。また、調査区の南側は、丘陵からの流れ込みがあったためか表土下で多量の礫がみられ、礫層下でも遺物が出土している。落ち込み部では包含層が２層に別れた間にも礫層が入り込む。また、包含層の下層の礫層からも若干ながら遺物が出土している。

2．遺構

遺構はベースとなる黄色砂質土層の上面で確認した。確認された遺構は焼土面・土坑・落ち込み・ピットなどである。遺跡は砂堆上に位置しているため、遺構の残りは良好ではなかった。また、包含層と遺構の埋土とが同色の土であり、十分な区別を行うことができなかった。

ＳＦ４　東西2.6m×南北1.8mの不定形を呈する焼土面で、表面には真っ赤に焼けた砂や炭が確認された。当初は第１次調査で確認された様な製塩炉になるものと考えられた。しかし、検出面より10～20cm程掘り下げた所でこれらの焼土や炭は確認できなくなり、炉跡になるような遺構は確認されなかった。

ＳＫ９　ＳＦ４の南西１m程の所に位置する遺構で、長径1.4m×短径1.05mの不定形を呈する土坑である。内部は深さ0.5m程の深い部分と、深さ0.2m程の浅い部分とに分かれる。遺物は土師器片が僅



第２図　遺跡周辺図（１：2,000）

かに出土したが、時期を決定できるようなものはなかった。埋土には多量の炭や軽石のようなものが含まれていた。

ＳＫ12　長径1.05m×短径0.8mの不定形を呈する土坑で、深さ0.35mを測る。ここからは土師器杯(13)・高杯（14・15）・台付甕（17～19）・小型壺(11・12)・二重口縁壺（16）などが出土している。

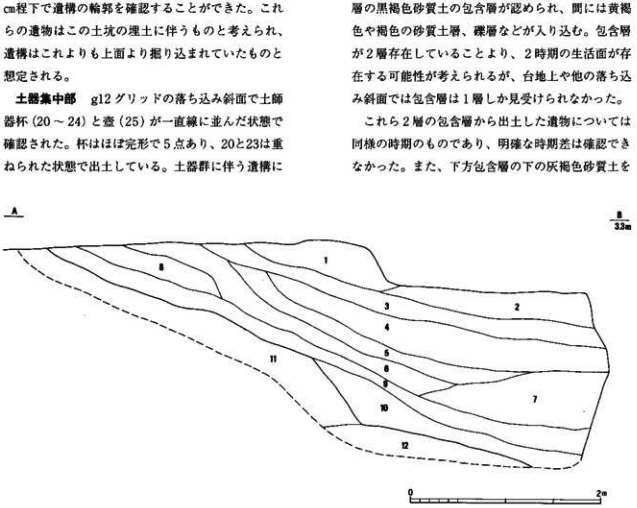
ＳＫ14　長径0.8m×短径0.6mの楕円形を呈する土坑で、深さは0.36mを測る。遺物は土師器杯（1・2）・高杯（3～7）・器台（8）・台付甕（9）、須恵器杯身（10）が出土している。遺物の検出面では遺構の輪郭を確認することができなかったが、10cm程下で遺構の輪郭を確認することができた。これらの遺物はこの土坑の埋土に伴うものと考えられ、遺構はこれよりも上面より掘り込まれていたものと想定される。

土器集中部　g12グリッドの落ち込み斜面で土師器杯(20～24)と壺(25)が一直線に並んだ状態で確認された。杯はほぼ完形で5点あり、20と23は重ねられた状態で出土している。土器群に伴う遺構については確認できなかった。出土状況から考えて、何らかの祭祀が行われた可能性が考えられる。

落ち込みＳＺ10　調査区のほぼ中央部から西側にかけて1m程落ち込む。落ち込みは、調査区内の南北をほぼ真っ直ぐ伸びており、南から伸びる砂堆の西端であると思われる。調査区の北端部分は、調査の工程上、落ち込み部を掘削することができなかったが、落ち込み斜面はそのまま北に向かって伸びるものと考えられる。また、f13～e12グリッドにかけては、落ち込み部分が東側に入り組んでいる部分が見られる。

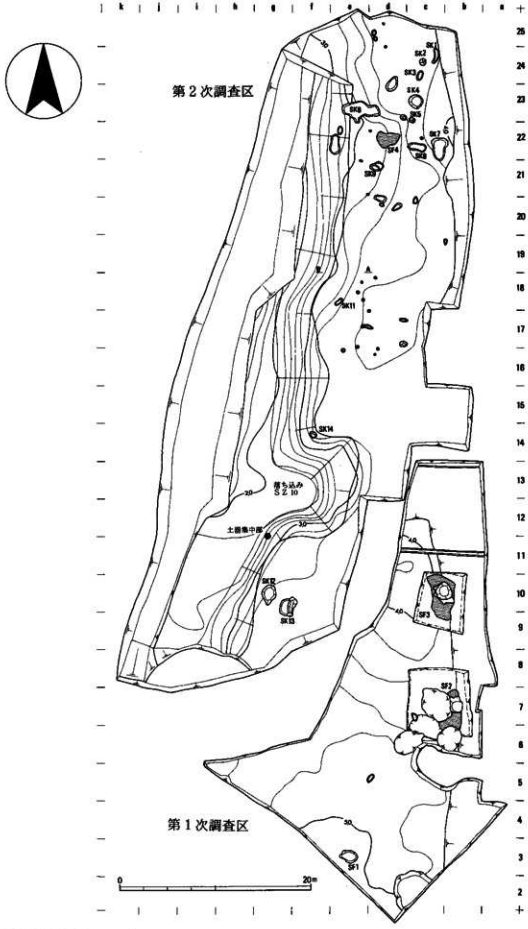
19ラインの落ち込み斜面の土層断面では、上下2層の黒褐色砂質土の包含層が認められ、間には黄褐色や褐色の砂質土層、礫層などが入り込む。包含層が2層存在していることより、2時期の生活面が存在する可能性が考えられるが、台地上や他の落ち込み斜面では包含層は1層しか見受けられなかった。

これら2層の包含層から出土した遺物については同様の時期のものであり、明確な時期差は確認できなかった。また、下方包含層の下の灰褐色砂質土を

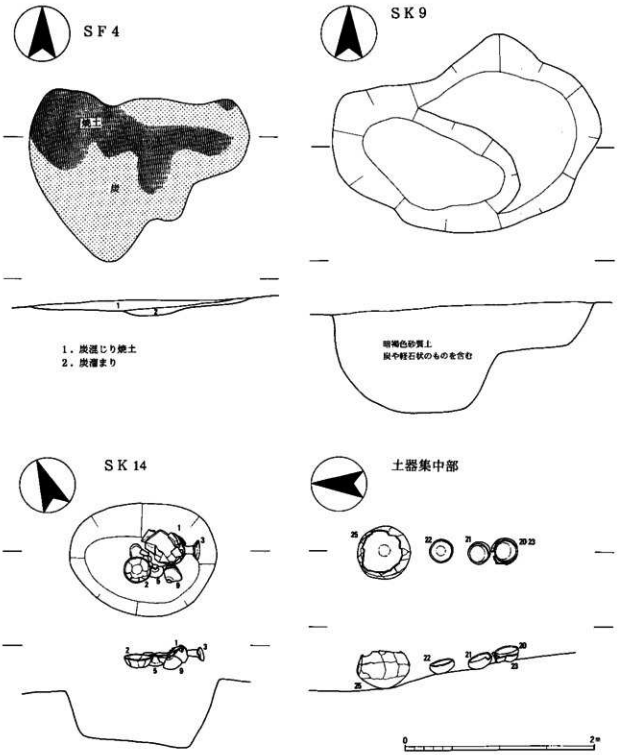


1．暗灰黄色粗砂混じり粘質土、堅く締まる　2．黒褐色砂質土、堅く締まる　3．黒褐色砂質土、礫を含む
4．黄灰色砂質土、小石混じる（包含層）　5．黄灰色砂質土　6．褐灰色砂質土
7．礫層に灰褐色砂質土混じる　8．黒褐色砂質土、堅く締まる　9．黒色砂質土、小石を多く含む（包含層）
10．褐灰色砂質土に黒色砂質土が混じる(下層)　11．黄褐色砂質土　12．礫層に黄褐色砂質土混じる

第3図　落ち込みＳＺ土層断面図（1：50）



第４図　調査区平面図（１：400）



第5図　SF4・SK9・SK14・土器集中部平面図、断面・立面図（1：40）

含む礫層からは双孔円盤（34・35）や土師器高杯(22)・台付甕(33)などのほか、受口状口縁甕(30)や壺(31)など弥生時代の遺物も出土している。

以上、主要な遺構について記述した。このほかにも不定形な土坑やピットなどがいくつか確認されたが、いずれからも遺物は出土せず、恐らくは自然木や風倒木などの痕跡であると考えられる。

Ⅲ 遺　物

第２次調査区からは土師器や須恵器など古墳時代の遺物を中心に、整理箱で150箱を超える多量の土器が出土した。土器のほとんどは黒褐色包含層から出土したもので、特にd13～g18グリッドの台地部及び斜面裾より出土したものが多い。

以下遺構や器種別に概略を述べるが、詳しくは遺物観察表を参照されたい。

ＳＫ14出土遺物（1～10）　土師器高杯が多く出土している。１・２は土師器杯。１は底部が扁平なもので、口縁端部は僅かに内湾する。器壁は薄く、ミガキ調整によって表面は光沢を持つ。ミガキは、口縁部外面は横方向に丁寧に行われているが、外面下半は不定方向である。内面にもミガキ調整が行われる。２は口縁部が大きく外に開くもので、底面は丸く平面を持たず、器壁は厚い。内面や外面口縁部に赤彩が残り、全面赤彩されていたと考えられる。土師器高杯は、脚土が橙色をして脚部が屈折するもの（３～６）と、脚土がややくすんだ発色をして脚部が接合部から大きく外に開くもの（７・８）に分かれる。３は口縁部外面をつよくナデているため強いナデ痕が残る。杯部の底面は一面に小さな窪みがいくつも見られる。粘土の剥離か、何らかの使用痕かは不明。８は杯部の屈曲部分で口縁部が剥離したもので、屈曲部で粘土を充分に乾燥させた後に接合したことが窺える。９は台付甕の脚部。10は須恵器杯身。口縁端部には面を持ち、底面には「×」字状のヘラ記号が見られる。田辺昭三氏の陶邑編年[1]のＴＫ23型式併行期のものと考えられる。

ＳＫ12出土遺物（11～19）　11・12は小型壺。器壁は薄く、調整は丁寧である。胎土には混和材の細粒が多く含まれる。外面には煤が付着。12の体部下半はやや粗いケズリが行われ、焼成後穿孔が見られる。13は土師器椀で、器壁は薄い。高杯の杯部の可能性もある。14・15は土師器高杯で、杯部に稜が見られる。14の口縁端部・脚端部とも丸く収まる。15は14に比べて杯部が深い。16は二重口縁壺。器壁は厚く、口縁端部は上方に突出する。17・18は台付甕。17は赤塚次郎氏の分類[2]によるＳ字状口縁台付甕のＤ類、18はいわゆる宇田型甕にあたる。

土器集中部出土遺物（20～25）　土師器の杯と壺が一直線に並んだ状態で出土したもの。20と23は重なった状態で出土している。杯は明るい橙色を呈して器壁が薄く軽いもの（22・23）と、ややにぶい発色を呈して口縁端部に面を持ち、器壁が厚く重いもの（21・22・24）に分かれる。前者は特に摩滅が激しい。25は壺の底部で、器壁は厚い。外面は体部中位はハケ、下半はケズリが行われる。内面にはやや粗いヨコハケが見られる。

その他の遺構出土遺物　26・27はＳＫ１出土の土器。26は土師器甕で、口縁端部が内側に折り返されて突出する。内面は肩部よりケズリが行われる。「布留式」の影響が考えられる。27は高杯脚部で、端部は内側に突出する。28・29はＳＫ７出土の土器。28は台付甕の脚部。外面にはハケは見られず、強い工具ナデの痕が残る。また内面の折り返しは見られない。29は台付椀の脚部。

下層出土遺物（30～35）　30は受口状口縁台付甕の口縁部。31は壺の底部で、底面には木の葉痕が残る。弥生時代後期のもの。34・35は双孔円盤。下層出土の遺物は30・31のように弥生時代後期に属するものと、32・33のように古墳時代のものが出土しており、包含層との時期差は明確に区別できない。

包含層出土遺物　36はＳ字状口縁台付甕の口縁部で、Ｂ類に属する。37は壺の口縁部で、内外面を丁寧に磨く。口縁端部は、下方に粘土紐を付加して外面を拡張する。外面には凹線が施され、２つの円形刺突文を持つ浮文を貼り付ける。38は壺の体部で、肩部には突帯が見られ、以下は横線文＋山形文を繰り返し、最後は円形刺突文が巡る。施文はハケ調整が行われた後に施されている。赤彩は、突帯部分と山形文部分・円形刺突文以下の部分に施されている。「宮廷式土器（パレススタイル）」と呼ばれるものである。39・40はいずれも小片で、おそらくは手焙り形土器の体部であろう。内外面には細かいハケを施す。41は双孔円盤、42は白玉。

これ以降の包含層出土土器は、遺物量が多く時期もまとまっているので、器種別に記述する。

土師器杯（43～83・93）　杯は、丸底で口縁部内

面に面を持つもの（43～51・59・61・62）と全体的に浅く扁平なもの（52～57）、口縁端部は丸く収束して平底を持つもの（58・60・63・66・67・93）、須恵器模倣杯に類するもの（68～83）に大別される。

43・44は体部外面にケズリが行われる。45は体部下半外面にミガキを行う。49は口縁部が肥厚して外反する。50の外面には煤が付着する。

52・53は浅く扁平な器形のもので、底部に木の業痕が残る。

58は器壁が薄く、口縁端部が鋭く収束する。外面には横方向にミガキが施される。60は底面に「×」字状のヘラ記号が残る。外面は二次焼成の為か煤が多く付着。内面には使用痕の様な痕跡が残る。63は極めて厚い器壁を持つ。66は器壁が厚く、口縁端部は丸く収まる。体部外面にはハケ調整が行われた後に、下半はケズリ、口縁部はナデ調整が行われる。67は内外面とも赤彩され、内面と口縁部外面はミガキが施される。外面下半はケズリが行われる。

68は須恵器杯蓋の忠実に模倣した杯で、口縁端部には須恵器と同様に段を持つ。体部外面はケズリが行われる。69は体部外面にケズリが行われる。内面および口縁部外面は赤彩される。70～72は口縁部が内傾する。70は口縁部外面と内面が赤彩され、体部外面は黒彩される[6]。71・72は体部外面にケズリが行われ、内外面とも赤彩される。73は内外面とも赤彩されるが、胎土は橙色を呈し、体部中位から口縁部にかけて上方に伸びるなど、他の土器とは様相を異にする。74・79は口縁部が緩やかに内傾し、内外面とも赤彩される。75・76は口縁部が大きく開く。77は須恵器杯蓋の模倣杯で、外面に稜を持つ。78は胎土が橙色を呈し、内面はかすかに赤彩が残る。80は器高が高く、内面が黒彩される。内面には粗い暗文状のミガキが見られる。82は扁平な器形で、口縁部は内傾する。内外面とも赤彩される。

土師器鉢（84～92） 84～86は浅く扁平な体部から外側に向かって開く口縁部をもつ。内外面は丁寧なミガキが施される。89は口縁端部は僅かに面を持つ。90は平底で、口縁端部は外側に向けて若干内湾しながら引き上げられる。87・88は内外面ともに赤彩される。87は口縁端部が指オサエによって外に若干開く。88は頸部が肥厚し口縁端部内側に面を持つ。91・92は口縁端部が内側に面を持ちながら外に開く。外面や内面の口縁端部にはハケが施される。

土師器小型壺（94・95） 94は口縁端部が上方に向けて丸く収まり、内面に面をもつ。95はやや横長の体部を持ち、口縁部は上方につまみ上げられる。外面や内面底部に煤が付着。底面に木の業痕が残る。

土師器高杯（96～154） 高杯は、杯部については稜を持ち口縁部が外反しながら大きく開くもの（99・100・101・104～108）と椀型のもの（96・97・102・109～117）に大別できる。脚部は、接合部から大きく外側に開くもの（147～149）と脚があまり開かずに裾部で屈折するもの（118～146・150～154）、脚部は細く外面を縦方向にミガキ調整を行うもの（98・150・151）に分かれる。

104・105はともに深い杯部を持ち、外面にはハケが残る。104は杯部の内外面をハケ調整するもので、器壁は厚く、有段部は下方に僅かに突出する。99・100・106は杯部が浅く、はっきりとした稜を持つ。口縁部は大きく開くもので、100・106は端部がやや内側に湾曲する。101は杯部の稜がはっきりしないもので、杯部内外面にハケ、口縁部にはナデ調整が行われる。107・108はやや大型の高杯で、器壁は厚い。口縁端部は上方に突出する。

102は口縁部が大きく開くもの。杯部外面にミガキが施される。109は椀型のもの。器壁は薄く、内面にはハケが行われる。口縁部が端部で外反することや、混和材に暗赤色のチャートを含むなど、他の高杯とやや様相を異にする。110も口縁端部が外反するものだが、器壁は厚く、杯部に接合痕が残る。

118～131は脚が裾部で大きく開き、端部は下方に突出する。脚部外面には縦方向に強いナデ調整が行われる。132～146は脚端部の突出が見られず、端部が丸く収まる。133は脚部上半にハケが残る。127には脚部にケズリによる面取りが見られる。147は脚部裾で一旦外反し、端部は下方に突出して外面に面を持つ。148は脚部裾で緩やかに外反し、端部は下方に突出する。150・151はともに脚部は細く、縦方向にミガキが施される。151は脚部内面をケズリ、裾部内面にハケを行う。152～154は脚部に円形の小さな窪みを持つもので、孔は貫通しない。脚部にこのような窪みを施すものは、三雲町宮ノ腰遺跡[7]や

同町上ノ庄北出遺跡[30]で出土している。

土師器台付甕（160～184） 台付甕は、口縁部が屈曲するもの（160～162・164・169～171）と口縁部に屈曲が見られず体部が外面に向けて面を持つもの（163・165・166）、口縁部が「く」の字状になるもの（167・168・172・173）に分かれる。

164は口縁部の屈曲が弱い。169・170は細かいハケが行われる。171は肩部には1条の横線が巡り、ヘラ記号の様なものも見られる。

167は口縁端部が下方に向けて突出し、体部のハケは目が粗く深い。173は口縁端部の1/4程に工具で押さえられた様な痕が残る。施文など意図的につけられたものではなく、ナデ調整後に何かにあたって付いた痕と思われる。

174～184は脚部。174・175・184は外面にハケが行われ、脚部裾には折り返しが見られる。174は脚部が外に開かず、外面にはハケも施されることなど、他の台付甕に比べてやや古い様相を示す。また、内面底部には補充砂が見られる。176～183の脚部にはハケは行われないが、強いナデ痕が残るものもある。

台付甕はS字状口縁台付甕D類から宇田型甕にかけてのものが見られる。

土師器甕（185～200） 185・186は口縁部が僅かに内湾し、端部は内側に突出する。185は胎土中に混和材の細粒を多く含む。体部外面にはハケ、体部内面にはケズリが行われる。186は黄橙色を呈し、体部外面には横方向のハケを行う。口縁部外面には煤が付着。185・186は「布留式」の影響が考えられる。187は胎土に砂粒を多く含むもの。口縁部はかすかに内湾し、端部は内側に突出する。口縁部内面には縦方向にハケが行われる。189は器壁が厚く、口縁部外面には煤が付着する。191は器壁が薄く、口縁端部はつまみ上げられる。外面には煤が付着する。191・192は頸部の屈曲が弱いもの。外面はハケが行われた後に口縁部を強いナデが巡る。193は短く外に開く口縁部を持ち、器壁は厚い。体部は内外面ともケズリが行われる。194は器壁が薄く、胎土には細粒を多く含む。体部外面や口縁部内面はハケ、口縁部外面はナデを行う。体部内面には接合痕が残る。196は胎土に多くの砂粒を含むもので、口縁部は肥厚する。体部外面には煤が付着する。197の胎土は粗く、砂粒を多く含む。外面には煤が付着する。198は口縁部が僅かに外反しながら上方に伸びるもので、底部は丸い。口縁部や体部に接合痕が残り、外面体部上半のハケ・下半のケズリともに粗い。199は長い胴部に短く反する口縁部を持つ。ハケは外面は細かく、内面は粗い。200は大型の甕で口縁部は肥厚し、端部内面で弱い段を持つ。

土師器把手（201） 甑か甕の把手。差込式のもので、把手の内面側には胎土とは異なる土が補充され、表面はケズリが行われる。

土師器小型壺（202～205） 202は口縁部が肥厚し、体部外面には丁寧なミガキが行われる。203は胎土に大粒の砂を含み、底面は僅かに窪む。体部上半にはかすかにハケが残り、下半は不定方向のケズリが行われる。204は小型のもので、体部外面や口縁部内面に細かいハケが行われる。205は小型の壺で、かすかに窪む平底をもつ。器壁は厚い。

土師器壺（206～219） 206～209は口縁部が緩やかに外反しながら開く二重口縁壺。一次口縁の接合部分で器壁は一旦薄くなり、端部で再び肥厚する。210は内面に刺突文が巡るもので、柳ヶ坪型壺に類するものと考えられる。211は頸部から上方に伸びる二重口縁壺。胎土に大粒の石英や雲母を多く含む。外面には煤が付着。213は大型の二重口縁壺で、一次口縁部分が大きく外に張り出す。214は縦長の体部を持ち、口縁部は肥厚し外面に広い面を持つ。内面に段は持たない。体部外面には工具によるナデ痕が、内面にはかすかなハケ痕か工具ナデ痕が残る。また、口縁部や体部外面に煤がべっとりと付着する。215は口縁端部が僅かに突出し、体部に極めて粗いタテハケと横線、浅く刻まれた刺突文が巡る。外面には僅かに煤が付着。218は大型の壺で、体部の上半に最大径を持つ。肩部には粗いタテハケを行った後に横線文を巡らす。横線状にヘラ状工具で斜線を引き、刺突文状の文様を施す。体部中位以下にはケズリが行われる。また、底部内面にはS字状口縁台付甕にみられるような、雲母や石英などを多く含む補充砂のようなものが見られ、明らかに壺の胎土とは異なる。219も大型の壺で、体部中位に最大径を持つ。肩部には粗いタテハケと横線文が見られる。体部上半の穿孔は焼成後行われたもの。

石製品（220～223） 220・221は礫石器。楕円形を呈する扁平な石を用い、側面全周に使用痕が残る。220はやや厚みのあるもので、両面とも中央部が楕円形に窪む。221は比較的薄いもので、片面にのみ使用痕が残る。222・223は砥石。222は四面とも使用されている。223は一面が欠損しているが、おそらく四面とも使用されていたものであろう。

須恵器杯蓋（224～259） 全体的に見て、胎土はやや砂粒が混じるものがあるものの、いずれも精緻なものである。つくりは丁寧で、体部外面の稜線や口縁端部などはシャープである。内面および口縁部・体部下半にはナデ、体部上半から天井部にかけてはヘラケズリが行われる。224はやや焼成不良で天井部が赤褐色を呈する。236・237の胎土には黒色の粒を含む。240は口縁部が歪んだもの。248も胎土に黒い粒を多く含む。255は口縁部が外側に開く。256～258は口径に比して器高が低く、扁平なものである。猿投窯産の可能性が考えられる。259は摘みの付くもので、かえりは短く口縁端部よりも低い。

須恵器杯身（260～282） 杯蓋同様精緻な胎土で、つくりも丁寧である。口縁端部内面に段を持つものと段を持たずに丸く収まるものがある。260は調整は丁寧で、体部外面には幅５～７㎜単位で細かい回転ヘラケズリを行う。261は焼成不良で、土師器の様な発色を呈する。264は260同様丁寧なヘラケズリが施されるが、器形は大きく歪む。271～277は器高が高い。276・278は受け部が水平に伸びて厚みを持つ。278の底面には二本線の、279の底部には一本線のヘラ記号が見られる。280・281の底部には「×」字状のヘラ記号が見られる。

須恵器高杯蓋（283～286） 283～285は稜から天井部にかけて丸みを持つもの。286は扁平な器形のもので、口縁端部に段を持ち、つくりは丁寧。

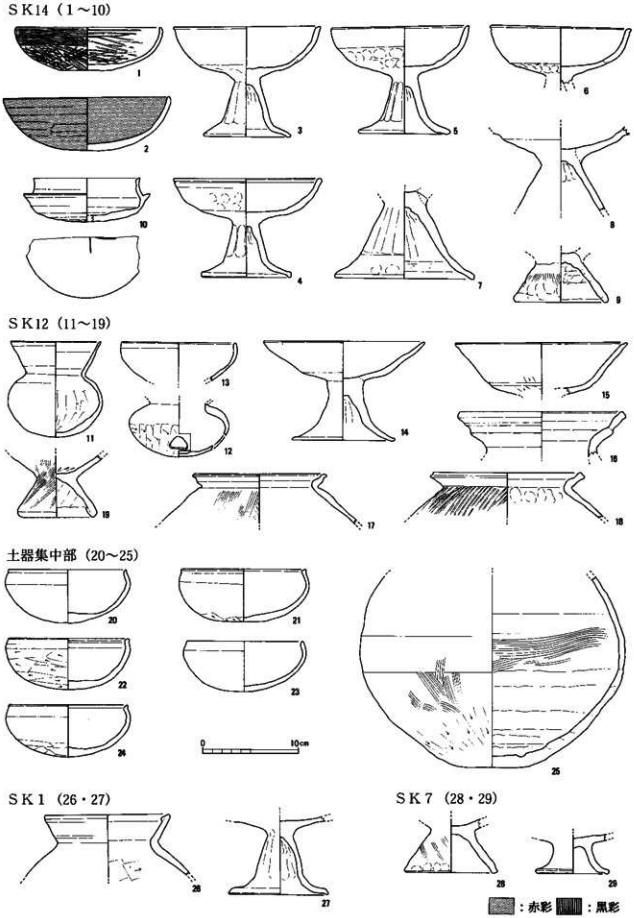
須恵器無蓋高杯（283～291） 287・288は把手付高杯。287の波状文は上下幅が狭く緩やかな波で、一部で乱れる。288は小刻みな波状文、289・290は流れるような躍動感のある波状文、291は「U」字形を描く波状文が巡る。

須恵器有蓋高杯（292～302） 292～297は方形スカシを持つ高杯。292～294・297の脚部にはカキメが巡る。274・275の脚部にはよく似たヘラ記号が見られる。301・302は円形三方スカシを持つ。298～300はスカシを持たないもの。298は脚部にカキメが巡る。299・300の脚裾部には２本の凸帯が巡る。

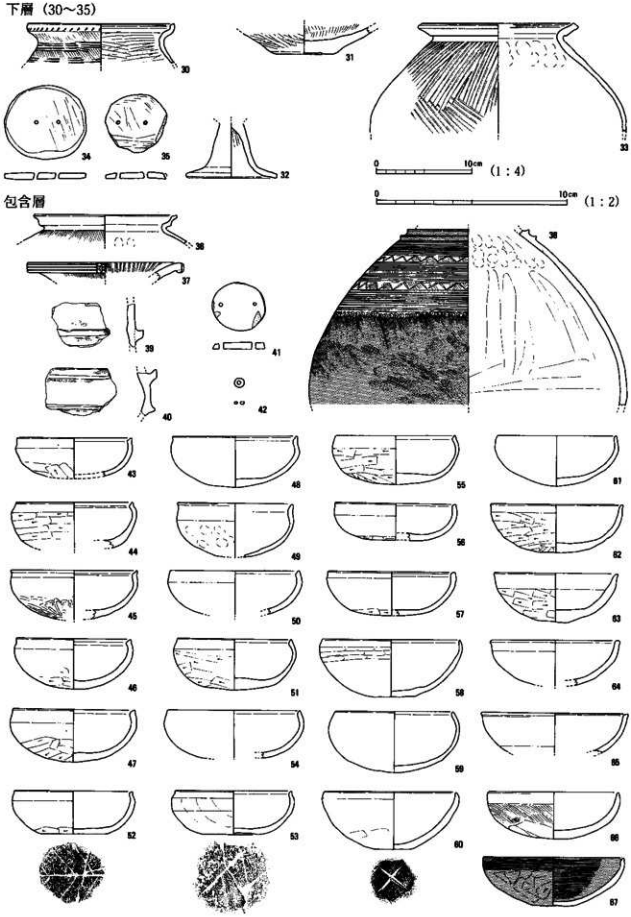
須恵器椀（303～307） 304は体部に２本の凸帯を持つ。櫛目の細かい波状文が巡るが、文様の下を巡る強いナデ調整によって波状文の下部は消える。体部下半のケズリなど調整はやや粗い。305～307は把手付高杯。305は胎土に砂粒を多く含み、体部下半のケズリは粗い。把手は小さく、波状文はやや粗雑である。306も小さな把手が付き、把手の上には球形の飾りが貼り付けられる。胎土には砂粒をやや含むが、調整は丁寧。はっきりとした底面を持ち、一本線のヘラ記号が残る。波状文は小刻みに施され、櫛目は３本と少ない。307は大型のもので、把手も大きい。器壁は厚く、重みがある。体部下半ケズリ後に不定方向のナデ調整を行い、底面はヘラ切り後未調整など、調整はやや粗い。波状文は一部で波状になっておらず、施文の開始点と終了点の高さが食い違うなど、非常に粗雑な施文である。

須恵器鍋（308～312） 308は器壁が薄く、つくりは丁寧で、口縁端部には面を持つ。波状文は口縁部・頸部・体部に描かれ、頸部の波状文は幅が広く、小刻みに施文される。309は器壁が薄く、つくりも丁寧。波状文は頸部のみで、体部には刺突文が巡る。310は器壁がやや厚いが、つくりは丁寧なもの。体部下半にはタタキ痕が残る。波状文は口縁部・頸部・体部に施されるが、頸部のものは極めて小刻みな施文である。311は口縁部で、端部は面を持たない。胎土は砂粒が少し混じるものの、器壁は薄くつくりは丁寧。波状文は頸部に２条巡り、いづれも小刻みで丁寧なもの。312は体部で、胎土にはやや砂粒が混じる。体部の刺突文は深くやや粗く刻まれているが、ケズリなどの調整は丁寧である。

須恵器壺（313～316） 313は頸部と体部にやや雑な波状文が巡る。314の体部に巡る刺突文はほぼ隙間なく施文される。体部下半にはうっすらとタタキ痕が残る。内面底部には工具の様なもので強く押さえられた痕がいくつも残る。315の体部には波状文が巡るが、一部で乱れが見られる。波状文下の沈線は、途中で途切れ一周しない。316は大型の壺の口縁部。口縁端部は上方に突出し、外面に面を持つ。

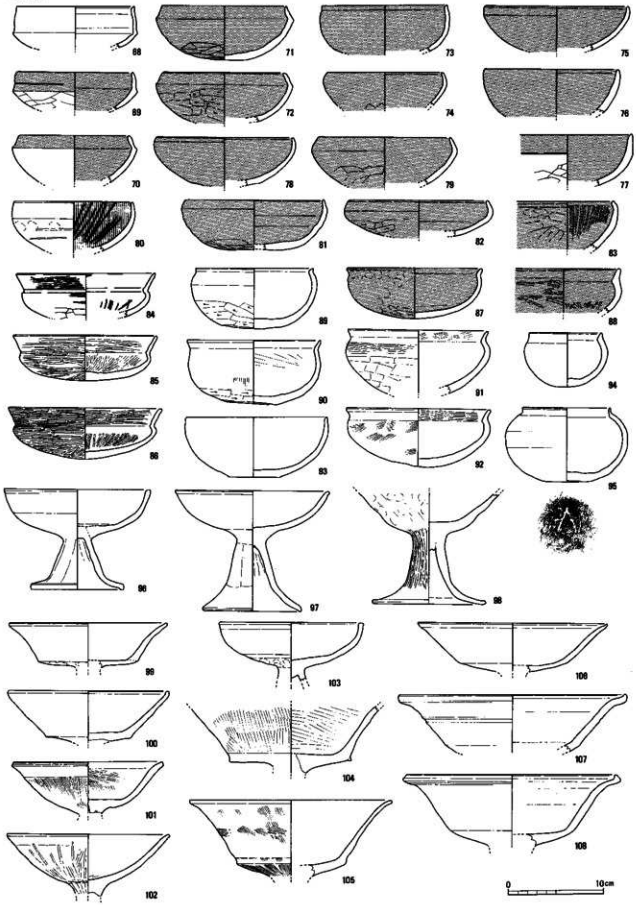


第6図　遺物実測図（1：4）



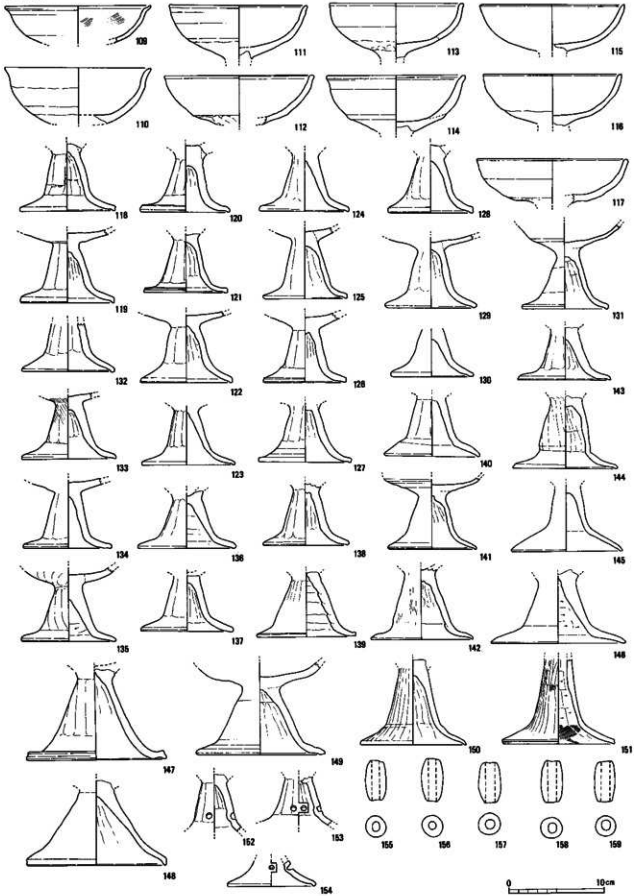
第７図　遺物実測図（34・35・41・42は１：２、他は１：４）

包含層



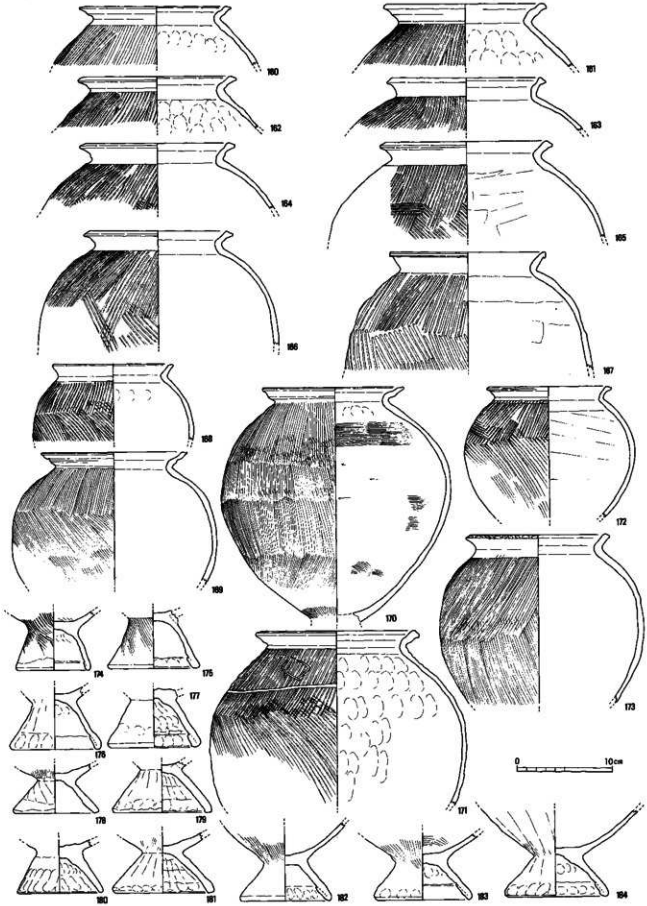
第８図　遺物実測図（１：４）

包含層



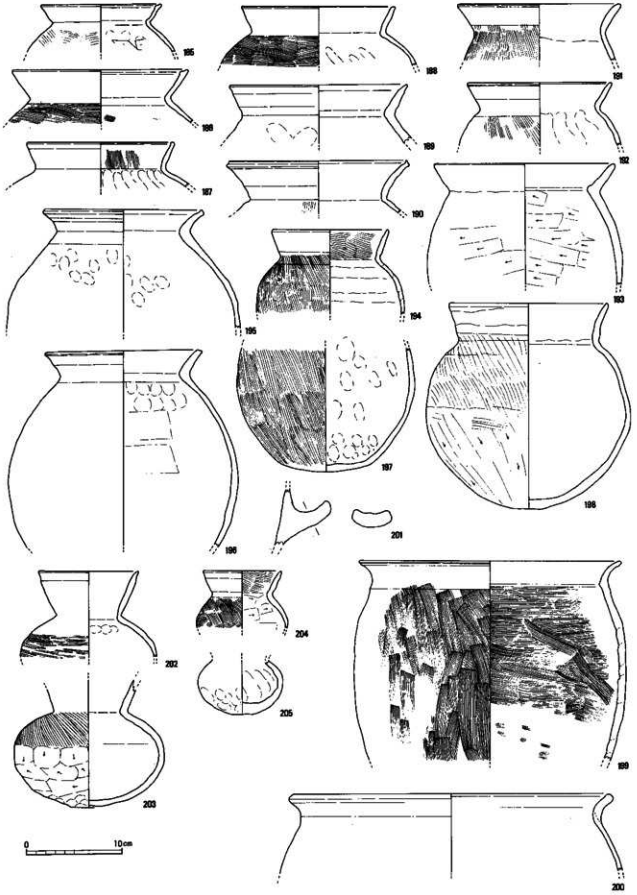
第９図　遺物実測図（１：４）

包含層



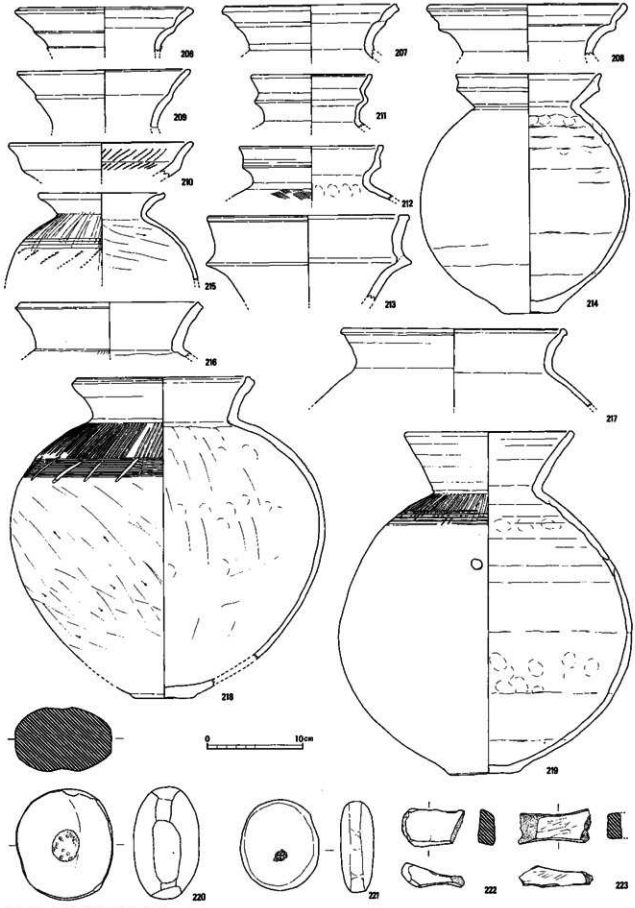
第10図　遺物実測図（1：4）

包含層



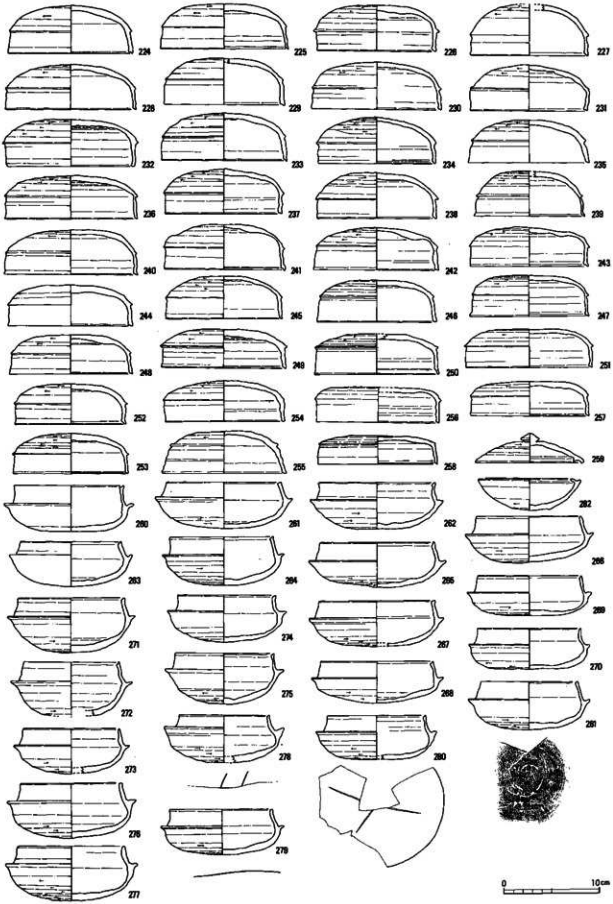
第11図　遺物実測図（1：4）

包含層



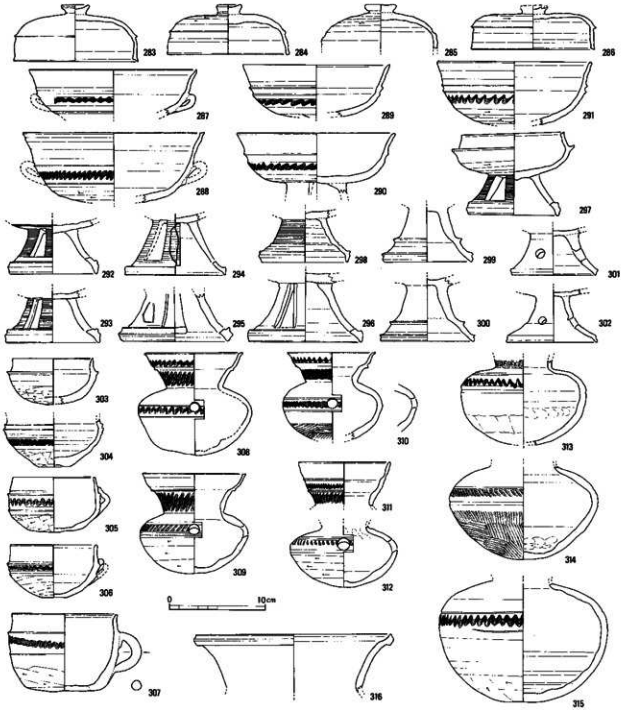
第12図　遺物実測図（1：4）

包含層



第13図　遺物実測図（1：4）

包含層



第14図　遺物実測図（1：4）

註

（1）田辺昭三『須恵器大成』角川書店、1981

（2）赤塚次郎『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター、1990

（3）須恵器模倣杯のなかで黒色処理されているものについては、煤による影響や炭素吸着とは異なる方法で処理されている。中には赤彩した上に黒色処理されているものもあり、永嶋氏が指摘するように漆による黒彩が妥当と思われる。

永嶋正春「2節　漆仕上土師器について」『東金市久我台遺跡』千葉県文化財センター、1988

（4）伊藤裕偉『宮ノ腰遺跡Ⅰ』三重県埋蔵文化財センター、1997

（5）山本義浩・杉本寿範『ヒノ庄北出遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1998

番号	登録番号	種別	器形	ケヅリ・潜橋	計測値(cm)		胴部	脚土構成	色調	残存度	備考
1	085-02	土師器	杯	f14 SK14	口径 15.3 底径 4.6		外面：ナデ→縦方向ミガキ・不定方向ミガキ 内面：ミガキ	密良	橙	3/4	
2	084-01	土師器	杯	f14 SK14	口径 17.0 底径 5.6		外面：口縁部ナデ、体部正具ナデ 内面：ナデ	やや粗密	橙	ほぼ完形	内外面に赤彩（にぶい赤褐色）
3	086-01	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	口径 15.3 底径 11.7		外面：杯部ナデ、杯脚下半ナデヤス、脚部面取り・ナデ 内面：杯部ミガキ、脚部シボリ	密良	橙	ほぼ完形	底径 9.1cm
4	085-03	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	口径 15.4 脚径 10.4		外面：杯部ナデ・オサエ、脚部面取り・ナデ 内面：ナデ、脚部ナデ・シボリ	密良	橙	3/4	底径 9.4cm
5	085-01	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	口径 14.4 脚径 11.5		外面：ナデ・オサエ、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ、脚部シボリ	密良	橙	2/3	
6	088-01	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	口径 14.8		外面：ナデ、杯部下半ナデヤス 内面：ナデ	やや粗良	にぶい赤褐	杯部完形	
7	071-02	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	底径 14.2		外面：ナデ・オサエ、脚部縦方向ナデ・脚ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗良	にぶい橙	脚部 1/5	脚上部に横付帯
8	071-03	土師器 高杯	杯 SK14	f14 SK14	—		外面：ナデ 内面：ナデ、脚部ナデ・シボリ	やや粗良	にぶい黄橙	口縁 1/4	
9	045-02	土師器 台付鉢	杯 SK14	f14 SK14	底径 9.4		外面：ナデ・ハケ 内面：工具ナデ	やや粗良	にぶい橙	脚部 5/6	
10	072-03	須恵器 鉢	杯 SK14	g10 SK14	口径 13.0 底径 4.6		外面：口縁部ナデ、杯脚下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗密	灰黄	1/3	受け部径 13.2cm 底部「×」字状のヘラ記号
11	002-02	土師器 小型壺	杯 SK12	g15 SK12	口径 10.1 脚径 9.3		外面：ナデ 口縁部内面：ナデ 体部内面：工具ナデ	やや粗良	にぶい橙	ほぼ完形	外面に横付帯
12	004-01	土師器 小型壺	杯 SK12	g15 SK12	最大径 10.4		外面：ナデ・下半ケズリ 内面：ナデ・オサエ	やや粗良	にぶい黄橙	体部 1/2	体部下半に焼成後穿孔
13	076-05	土師器 杯	杯 SK12	g10 SK12	口径 11.8		ナデ？	やや粗密	橙	小片	
14	004-02	土師器 高杯	杯 SK12	g10 SK12	口径 16.6 脚径 12.4		内外面：ナデ 脚部内面：シボリ	やや粗密	浅黄橙	1/2	底径 10.4cm
15	075-02	土師器 高杯	杯 SK12	g10 SK12	口径 17.6		ナデ	やや粗密	にぶい黄橙	小片	外面に横付帯
16	075-01	土師器 鉢	杯 SK12	g10 SK12	口径 16.8		ナデ	やや粗密	にぶい橙	小片	
17	076-03	土師器 台付鉢	杯 SK12	g10 SK12	口径 13.5		外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	やや粗密	灰黄橙	小片	
18	076-02	土師器 台付鉢	杯 SK12	g10 SK12	口径 15.2		外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	やや粗密	にぶい黄橙	口縁 1/4	
19	075-05	土師器 台付鉢	杯 SK12	g10 SK12	底径 7.6		外面：ハケ・ナデ 内面：ナデ、底部に工具痕	やや粗密	にぶい黄橙	小片	
20	004-04	土師器 杯	杯 土師器中膝	g12 SK12	口径 12.2 脚径 5.5		胴部不明	やや粗良	橙	ほぼ完形	外面やや胴部不明瞭
21	004-03	土師器 杯	杯 土師器中膝	g12 SK12	口径 12.6 脚径 5.4		外面：ナデ・下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	橙	ほぼ完形	
22	028-02	土師器 杯	杯 土師器中膝	g12 SK12	口径 15.2 脚径 5.4		外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	やや粗密	橙	完形	
23	037-03	土師器 杯	杯 土師器中膝	g12 SK12	口径 13.0 脚径 5.3		胴部不明	やや粗密	橙	完形	
24	014-01	土師器 杯	杯 土師器中膝	g12 SK12	口径 12.2 脚径 5.5		外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	橙	口縁 1/2	
25	004-01	土師器 鉢	杯 土師器中膝	g12 SK12	底径 9.5 最大径 28.9		外面：縦方向工具ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ・ハケ	やや粗良	にぶい橙	2/3	外面に黒斑
26	073-01	土師器 甕	c24 SK1	SK1	口径 13.0		外面：ナデ 内面：ナデ・ケズリ	粗密	赤褐	小片	
27	075-04	土師器 高杯	c24 SK1	SK1	底径 10.6		外面：ナデ、縦方向ナデ 内面：脚部ナデ・シボリ	やや粗密	にぶい黄橙	脚部 2/3	
28	055-05	土師器 台付鉢	c22 SK7	SK7	底径 9.6		外面：ナデ・ハケ、脚部縦オサエ 内面：ナデ	やや粗密	にぶい黄橙	脚部 5/6	
29	055-06	土師器 台付鉢	c22 SK7	SK7	底径 7.2		ナデ	やや粗密	橙	脚部 5/6	
30	017-04	土師器 台付鉢	h 9 下層	h10 下層	口径 15.2		外面：ナデ・ハケ、口縁部ヤサモ、脚部横編 内面：ナデ、ハケ	やや粗密	浅黄	口縁 1/5	
31	048-05	土師器 鉢	f19 下層	f19 下層	底径 6.0		外面：ミガキ、底部木の葉痕 内面：ハケ	やや粗密	にぶい黄橙	底部 完形	
32	049-04	土師器 高杯	f19 下層	f19 下層	底径 9.0		外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	粗密	橙	脚部 1/2	
33	049-01	土師器 台付鉢	f19 下層	f19 下層	口径 15.8		外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	粗良	橙	口縁 1/2	
34	054-01	石製品 双孔円盤	g19 下層	長径 4.3 短径 3.8 厚さ 0.3			—	—	青灰	完形	厚さ 0.4cm 重さ 11.02g
35	054-02	石製品 双孔円盤	h10 下層	最径 3.0 厚さ 0.3			—	—	緑灰	完形	重さ 4.71g
36	011-02	土師器 台付鉢	f25 包含層	口径 14.7			外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ナデ・オサエ	密良	にぶい橙	口縁 1/6	外面に横付帯
37	010-02	土師器 鉢	h10 包含層	口径 15.6			外面：縦方向ミガキ、口縁部：凹線文・浮文 内面：縦方向ミガキ	やや粗良	橙	口縁 1/6	
38	002-01	土師器 甕	a11+g11 包含層	—			外面：ハケ、黄褐文・山形文・竹管文、突帯 内面：ナデ、体部上半オサエ	やや粗密	にぶい赤褐	体部 2/3	バレス痕 赤彩（倉橋色）
39	076-06	土師器 手捏ね土器	g10 包含層	—			ハケ	やや粗密	にぶい橙	小片	
40	001-06	土師器 手捏ね土器	g11 包含層	—			ナデ・ハケ	やや粗密	橙	小片	
41	054-03	石製品 双孔円盤	f17 包含層	長径 2.7 短径 2.4 厚さ 0.3			—	—	暗青灰	完形	厚さ 0.4cm 重さ 3.87g
42	054-04	石製品 日玉	g18 包含層	直径 0.5			—	—	緑灰	完形	厚さ 0.1cm 重さ 0.06g
43	073-05	土師器 杯	f23 包含層	口径 11.8			外面：ナデ、体部下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗密	橙	小片	外面に横付帯
44	032-02	土師器 杯	g18 包含層	口径 12.0			外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	やや粗密	にぶい橙	1/2	
45	048-04	土師器 杯	f16 包含層	口径 13.0			外面：ナデ、下半ミガキ 内面：ナデ	やや粗密	にぶい赤褐	1/3	
46	042-04	土師器 杯	g18 包含層	口径 11.8			外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗密	にぶい橙	1/4	

第1表　遺物観察表

番号	登録番号	種別 器種	グリッド 遺構	計測値 (cm)	概要	除土順位	色調	残存度	備考
47	061 -03	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.4	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	橙	1/2	
48	003 -03	土師器 杯	d16 包含層	口径 13.0 器高 5.4	内面：ナデ 外面：調整不明	中心密 芯	橙	1/2	
49	026 -05	土師器 杯	g16 包含層	口径 11.9	外面：口縁部ナデ、体部工具ナデ・オサエ 内面：ナデ、底部ハケリ	中心密 芯	橙	口縁 1/4	
50	070 -03	土師器 杯	e18 包含層	口径 13.4	ナデ	中心密 芯	にぶい 橙	口縁 1/4	外面に煤付着
51	026 -04	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.0 器高 5.4	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	にぶい 黄橙	1/3	
52	005 -01	土師器 杯	g13 包含層	口径 12.0 器高 4.6	外面：ナデ・下半ケズリ、底部：木の葉痕 内面：ナデ	密 良	橙	4/5	
53	023 -01	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.0 器高 4.4	外面：口縁部ナデ、体部ナデ→オサエ、底部木の葉痕 内面：ナデ	密 良	にぶい 橙	3/4	外面に煤付着 内面底部に煤付着？
54	070 -02	土師器 杯	e18 包含層	口径 13.8	ナデ	中心密 芯	橙	1/4	
55	026 -03	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.2 器高 5.2	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	橙	1/2	内面に煤付着？
56	055 -03	土師器 杯	g12 包含層	口径 12.4 器高 3.9	外面：口縁部ナデ、底部ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	にぶい 橙	1/4	内外面に煤付着
57	042 -02	土師器 杯	g14 包含層	口径 13.2	外面：ナデ、底部ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	橙	1/2	
58	024 -01	土師器 杯	g16 包含層	口径 14.3 器高 6.1	外面：口縁部ナデ・ミガキ、体部ナデ 内面：ナデ	密 良	橙	2/3	
59	024 -03	土師器 杯	g16 包含層	口径 13.2 器高 6.4	調整不明	中心密 芯	橙	1/3	
60	024 -04	土師器 杯	g16 包含層	口径 13.7 器高 6.0	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ→ナデ 内面：ナデ	密 良	にぶい 赤褐	ほぼ 完形	底部に「×」字状の記号 内外面に煤付着
61	045 -02	土師器 杯	g17 包含層	口径 12.4	調整不明	中心密 芯	橙	1/2	
62	032 -03	土師器 杯	g17 包含層	口径 13.5 器高 5.1	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	にぶい 赤褐	1/4	
63	066 -03	土師器 杯	g13 包含層	口径 12.8	外面：口縁部ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	にぶい 橙	口縁 1/4	
64	062 -03	土師器 杯	g16 包含層	口径 13.2	ナデ	中心密 芯	にぶい 橙	3/8	
65	087 -03	土師器 杯	f15 包含層	口径 15.2	ナデ	中心密 芯	橙	1/4	
66	057 -02	土師器 杯	g14 包含層	口径 13.4 器高 4.9	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	灰褐	4/5	外面に煤付着
67	085 -04	土師器 杯	g15 包含層	口径 15.0 器高 5.1	外面：口縁部横方向ミガキ、体部下半不定方向ケズリ 内面：ミガキ	中心密 芯	にぶい 橙	1/2	内外面赤彩
68	093 -06	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.2	外面：ナデ、体部下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 良	橙	小片	
69	095 -01	土師器 杯	g13 包含層	口径 14.0	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	密 良	赤 橙	口縁 1/5	口縁部外面および内面赤彩 独土：褐灰色
70	083 -02	土師器 杯	g14 包含層	口径 11.4	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	密 良	赤 橙	口縁 1/5	口縁部外面および内面赤彩 外面体部黒色処理、独土：褐灰色
71	094 -02	土師器 杯	g14 包含層	口径 12.9 器高 3.8	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	中心密 良	赤	3/4	内外面赤彩 独土：橙色
72	090 -04	土師器 杯	g15 包含層	口径 12.0 器高 3.5	外面：ナデ・オサエ、下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 良	赤褐	1/4	
73	093 -04	土師器 杯	g17 包含層	口径 13.0	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	密 中心良	赤	口縁 1/3	内外面赤彩 独土：黄橙色
74	083 -03	土師器 杯	g15 包含層	口径 12.0	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	密 良	赤	口縁 1/3	内外面赤彩 独土：にぶい黄色
75	090 -06	土師器 杯	g16 包含層	器高 5.0 口径 15.0	ナデ	密 良	にぶい 赤褐	口縁 1/4	外面ていねいなナデ痕付着、内面底部に 外面に煤付着、独土：橙色
76	093 -05	土師器 杯	g17 包含層	口径 15.0	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	密 不良	にぶい 赤褐	口縁 1/3	内外面赤彩、外面に煤付着 独土：橙色
77	091 -04	土師器 杯	g11 包含層	—	外面：ナデ、体部下半ケズリ 内面：ナデ	密 良	橙	小片	外面口縁部および内面赤彩
78	090 -05	土師器 杯	g17 包含層	口径 14.0 器高 5.5	ナデ	密 良	橙	口縁 1/4	外面口縁部に煤付着
79	002 -04	土師器 杯	g16 包含層	口径 13.8	外面：ナデ・ケズリ 内面：ナデ	中心密 芯	灰白	口縁 1/5	内外面赤彩 風倉原土師
80	095 -02	土師器 杯	g17 包含層	口径 12.5	外面：ナデ、オサエ、ミガキ？ 内面：ナデ・ミガキ	中心密 芯	橙 明褐	小片	内面に黒色処理？
81	094 -01	土師器 杯	g18 包含層	口径 14.4 器高 5.3	外面：ナデ、体部下半不定方向のケズリ 内面：ナデ	中心密 良	赤褐	1/2	内外面赤彩、外面に煤付着 独土：にぶい黄色
82	091 -01	土師器 杯	g16 包含層	口径 14.0 器高 4.9	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 良	にぶい 橙	小片	内外面赤彩
83	091 -03	土師器 杯	g16 包含層	—	外面：ケズリ、口縁端部ナデ 内面：ミガキ、口縁端部ナデ	密 芯	橙	小片	内外面赤彩 外面煤多く付着
84	084 -03	土師器 杯	g15 包含層	口径 14.4	外面：ミガキ、体部下半ケズリ→ミガキ 内面：ミガキ、ナデ	密 良	明赤褐	小片	
85	023 -03	土師器 杯	g15 包含層	口径 14.8 器高 4.8	外面：口縁部ミガキ、体部ケズリ→ミガキ 内面：ミガキ	中心密 良	明褐	小片	
86	090 -01	土師器 杯	g15 包含層	口径 16.4 器高 5.4	外面：ミガキ、体部下半ケズリ→ミガキ 内面：ミガキ	中心密 良	明赤褐	1/4	
87	080 -03	土師器 杯	g17 包含層	口径 14.0 器高 5.0	外面：ナデ・オサエ、下半ケズリ 内面：ナデ、底部ケズリ	密 良	にぶい 橙	口縁 1/3	外面赤彩 独土：褐灰色
88	091 -02	土師器 杯	g17 包含層	—	外面：ナデ・ミガキ 内面：ナデ・ミガキ	密 良	にぶい 赤褐	小片	内外面赤彩 独土：橙色
89	008 -03	土師器 杯	g16 包含層	口径 12.2 器高 6.3	外面：ナデ・下半ケズリ 内面：ナデ	中心密 良	黄	1/2	
90	011 -01	土師器 杯	h9 包含層	口径 13.9 器高 4.5	外面：ナデ・工具痕？、下半ケズリ 内面：ナデ・工具痕？	密 良	赤褐	1/2	外面に煤付着
91	024 -05	土師器 杯	g16 包含層	口径 14.6	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・下半ケズリ 内面：口縁部ハケ、体部ナデ	中心密 芯	明赤褐	1/4	
92	061 -02	土師器 杯	g16 包含層	口径 14.6	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・ケズリ 内面：口縁部ハケ、体部ナデ	中心密 芯	明赤褐	1/3	

第２表　遺物観察表

番号	整理番号	種別	器形	ケズリ・ヘラ磨痕	計測値(cm)	調整	胎土・焼成	色調	残存度	備考
93	086-02	土師器	杯	g14	口径 15.0 底径 5.2	外面：ケズリ、底部ケズリ 内面：ナデ	やや密良	にぶい赤褐	1/3	底径 5.3cm 外面口縁部に煤がべっとりと付着
94	086-04	土師器	鉢	g14	口径 7.8	ナデ	やや粗並	橙	1/2	
95	025-02	土師器	g17	口縁 6.0 底部 8.0	ナデ、底縁に木の葉痕	密良	橙	杯部1/3	外面に煤付着	
96	038-02	土師器	d16	口径 15.2 底径 10.5	外面：ナデ 内面：ナデ、脚部シボリ・ナデ	やや粗並	橙	1/3	底径 9.6cm	
97	084-03	土師器	d16	口径 15.8 底径 12.7	外面：ナデ?、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ?、脚部シボリ	やや密良	明赤褐	1/3	底径 10.1cm	
98	052-06	土師器	g14	底径 11.4	外面：杯部ナデ・オサエ、脚部ミガキ・ナデ 内面：ナデ	やや粗良	橙	脚部1/4	
99	062-01	土師器	f20	口径 16.2	外面：ナデ・オサエ・工具痕 内面：ナデ	やや粗並	にぶい黄橙	杯部1/3	
100	014-04	土師器	g11	口径 16.7	ナデ	やや粗良	にぶい橙	杯部1/2	内外面に煤付着
101	008-01	土師器	h11	口径 18.4	外面：ハケ、口縁部：ナデ 内面：ハケ、口縁部：ナデ	密良	橙	杯部完形	
102	071-01	土師器	f19	口径 16.9	外面：ミガキ 内面：ナデ	やや密並	にぶい橙	杯部1/4	
103	043-02	土師器	g17	口径 14.8	外面：ナデ・オサエ 内面：ナデ・シボリ	やや密並	橙	杯部1/4	
104	049-02	土師器	g18	—	外面：ハケ・ナデ 内面：ハケ	密並	橙	杯部1/2	
105	016-04	土師器	g13	口径 21.2	外面：ハケ 内面：調整不明	やや粗並	橙	杯部1/4	
106	011-01	土師器	g11	口径 19.6	調整不明	粗並	にぶい黄橙	小片	外面に煤付着
107	048-01	土師器	f18	口径 22.8	外面：ナデ、沈線 内面：ナデ	粗並	にぶい橙	杯部1/4	
108	087-01	土師器	g18	口径 21.8	ナデ	やや粗並	橙	杯部1/2	
109	087-05	土師器	f18	口径 15.0	外面：ナデ 内面：ミガキ?	やや粗並	橙	杯部1/3	
110	055-02	土師器	g17	口径 15.0	ナデ	やや粗並	にぶい橙	杯部1/3	
111	037-02	土師器	g15	口径 14.0	ナデ	粗並	橙	杯部3/5	
112	087-04	土師器	f18	口径 15.3	外面：ナデ、杯部下半オサエ 内面：ナデ	やや粗並	橙	杯部2/5	
113	045-01	土師器	g14	口径 13.8	外面：ナデ・オサエ 内面：ナデ	やや密並	橙	杯部1/3	外面口縁部に煤付着
114	068-02	土師器	f20	口径 14.2	ナデ	やや粗並	橙	杯部1/3	
115	061-04	土師器	f14	口径 14.8	ナデ	やや粗並	橙	杯部1/4	
116	068-02	土師器	g18	口径 14.6	ナデ	やや粗並	橙	杯部完形	
117	048-02	土師器	e15	口径 15.5	外面：ナデ・オサエ 内面：調整不明	やや粗良	にぶい橙	小片	
118	065-03	土師器	f19	底径 9.8	外面：ナデ・縦方向ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗並	にぶい橙	脚部1/3	
119	083-02	土師器	c19	底径 9.7	外面：ナデ、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ、脚部ナデ・シボリ	やや密並	橙	脚部3/4	
120	061-05	土師器	f14	底径 9.1	外面：縦方向ナデ 内面：ナデ・シボリ	密良	橙	2/3	
121	046-03	土師器	g14	底径 8.6	外面：縦方向ナデ、脚部ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや密並	橙	脚部1/3	
122	087-04	土師器	f14	底径 9.4	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや密並	にぶい赤橙	1/2	
123	015-04	土師器	f20	底径 9.7	外面：ナデ 内面：シボリ→ナデ	密良	明赤褐	脚部3/4	
124	027-02	土師器	e20	底径 11.4	外面：脚部縦方向ナデ・裾部ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗並	明赤褐	脚部1/3	
125	027-01	土師器	g16	底径 10.4	外面：脚部縦方向ナデ・裾部ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗良	橙	脚部完形	
126	087-06	土師器	g17	底径 8.4	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗並	にぶい赤橙	脚部3/4	
127	073-06	土師器	g15	底径 9.6	外面：ナデ・面取り 内面：ナデ	やや粗並	明赤褐	脚部完形	
128	019-02	土師器	g14	底径 8.5	外面：ナデ、面取り 内面：ナデ	やや粗並	橙	脚部完形	
129	026-06	土師器	g14	底径 9.0	外面：脚部縦方向ナデ・裾部ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗並	明赤褐	脚部3/4	
130	074-03	土師器	g17	底径 8.6	調整不明	やや密良	橙	脚部2/3	
131	022-04	土師器	g15	底径 8.8	外面：ナデ 内面：杯部ナデ、脚部ナデ・シボリ	やや粗良	橙	脚部3/4	
132	013-03	土師器	e13	底径 9.6	外面：ナデ・面取り 内面：ナデ・シボリ	密良	橙	小片	
133	045-04	土師器	g17	底径 9.7	外面：ナデ・縦方向ナデ・ハケ 内面：ナデ・シボリ	やや密並	橙	脚部3/4	
134	067-03	土師器	g14	底径 9.0	ナデ	やや密並	橙	脚部1/2	
135	061-06	土師器	g17	底径 9.8	外面：杯部オサエ、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ、脚部ナデ	やや粗並	橙	脚部3/4	
136	063-04	土師器	g17	底径 9.8	外面：縦方向ナデ 内面：工具ナデ	やや粗並	橙	脚部2/3	
137	065-04	土師器	f19	底径 9.5	外面：縦方向工具ナデ・ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや密並	明赤褐	脚部3/4	
138	063-05	土師器	g17	底径 8.4	外面：縦方向ナデ 内面：ナデ・シボリ	やや粗並	橙	脚部完形	

第3表　遺物観察表

番号	登録番号	種別	グリッド	計測値 (cm)	関係	胎土 焼成	色調	残存度	備考
139	075 -03	土師器 高杯	g10 包含層	底径 10.5	ナデ	中・粗 並	にぶい 橙	脚部 2/3	
140	015 -02	土師器 高杯	h11 包含層	底径 9.6	外面：ナデ、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ	密 良	橙	底部 完形	
141	022 -03	土師器 高杯	g17 包含層	底径 9.0	外面：ナデ 内面：杯部ナデ、脚部ナデ・シボリ	密 良	橙	1/2	
142	033 -01	土師器 高杯	g17 包含層	底径 10.6	外面：工具ナデ 内面：ナデ・シボリ	中・粗 並	浅黄橙	脚部 1/2	
143	048 -04	土師器 高杯	g14 包含層	底径 9.8	外面：ナデ・面取り 内面：ナデ・シボリ	密 良	橙	脚部 2/3	
144	016 -03	土師器 高杯	f19 包含層	底径 11.0	外面：ナデ 内面：ナデ、脚部シボリ	中・粗 良	橙	脚部 2/3	
145	008 -02	土師器 高杯	h11 包含層	底径 11.3	内外面：ナデ	中・粗 良	明黄褐	脚部 1/2	
146	014 -02	土師器 高杯	f19 包含層	底径 14.1	外面：ナデ 内面：ナデ、脚部縦方向ケズリ	中・粗 良	にぶい 橙	脚部 1/2	
147	067 -01	土師器 高杯	g15 包含層	底径 14.4	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 1/2	
148	015 -01	土師器 高杯	f19 包含層	底径 14.2	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	中・粗 良	にぶい 黄橙	脚部 2/3	
149	059 -05	土師器 高杯	g14 包含層	底径 13.4	外面：脚部不明 内面：シボリ→ナデ	中・粗 良	橙	脚部 3/4	
150	014 -01	土師器 高杯	i 9 包含層	底径 11.0	外面：ナデ、脚部縦方向ナデ 内面：ナデ、脚部シボリ	中・粗 並	橙	底部 1/2	
151	059 -04	土師器 高杯	g15 包含層	底径 11.6	外面：ハケ→ミガキ、脚部ナデ 内面：シボリ・ケズリ、裾部ハケ	中・粗 良	にぶい 橙	脚部 完形	
152	071 -05	土師器 高杯	g15 包含層	—	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	中・粗 並	橙	小片	貫通しない円孔 1 つあり
153	071 -05	土師器 高杯	g15 包含層	—	外面：ナデ 内面：ナデ・シボリ	中・粗 並	にぶい 橙	小片	貫通しない円孔 2 つあり
154	081 -05	土師器 高杯	g14 包含層	9.3	ナデ	密 並	橙	小片	貫通しない円孔 1 つあり
155	056 -07	土 鉢	e21 包含層	長さ 4.2 幅 2.2	—	中・粗 並	灰黄	完形	穴径 0.8cm 重さ 17.615g
156	074 -04	土 鉢	d22 包含層	長さ 4.5 幅 2.2	—	密 並	にぶい 黄橙	完形	穴径 0.8cm 重さ 18.860g
157	003 -04	土 鉢	e21 包含層	長さ 4.3 幅 2.3	—	中・粗 並	にぶい 黄橙	完形	穴径 1.0cm 重さ 17.340g
158	056 -05	土 鉢	e20 包含層	長さ 4.4 幅 2.3	—	中・粗 並	にぶい 黄橙	完形	穴径 1.0cm 重さ 18.945g
159	056 -06	土 鉢	e21 包含層	長さ 4.4 幅 2.1	—	中・粗 並	にぶい 黄橙	完形	穴径 1.0cm 重さ 17.495g
160	055 -01	土師器 台付鉢	e11 包含層	口径 15.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	口縁 完形	外面に煤付着
161	072 -02	土師器 台付鉢	g17 包含層	口径 16.4	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	粗 並	にぶい 橙	口縁 1/4	外面に煤付着
162	001 -05	土師器 台付鉢	f19 包含層	口径 15.2	外面：ハケ 内面：ナデ・オサエ	密 良	にぶい 黄橙	口縁 1/4	外面に煤付着
163	025 -03	土師器 台付鉢	g14 包含層	口径 18.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	中・粗 良	にぶい 橙	小片	外面に煤付着
164	043 -01	土師器 台付鉢	g17 包含層	口径 15.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	中・粗 並	浅黄橙	口縁 1/4	
165	070 -04	土師器 台付鉢	f19・g14 包含層	口径 16.8	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部工具ナデ	中・粗 並	にぶい 黄橙	口縁 1/4	外面に煤付着
166	057 -01	土師器 台付鉢	e18 包含層	口径 14.2	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	中・粗 並	灰黄褐	口縁 1/4	内外面に煤付着
167	012 -01	土師器 台付鉢	h11 包含層	口径 16.2	外面：口縁部ナデ、体部：ハケ 内面：ナデ、体部に工具痕あり	中・粗 並	にぶい 黄橙	口縁 完形	内外面に煤付着
168	017 -01	土師器 台付鉢	g12 包含層	口径 12.6	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	橙	口縁 1/2	外面に煤付着
169	044 -04	土師器 台付鉢	f17 包含層	口径 15.0	外面：口縁部ナデ・体部ハケ 内面：ナデ	中・粗 並	褐灰 並	口縁 1/5	外面に煤付着
170	062 -01	土師器 台付鉢	g12 包含層	口径 14.2	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ハケ・オサエ	中・粗 良	にぶい 黄橙	口縁 1/2	外面に煤付着
171	013 -01	土師器 台付鉢	h13 包含層	口径 16.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部工具ナデ→オサエ	中・粗 並	暗灰 並	口縁 完形	内外面に煤付着
172	070 -01	土師器 台付鉢	g15 包含層	口径 12.4	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部工具ナデ	中・粗 並	にぶい 黄橙	口縁 1/4	
173	083 -01	土師器 台付鉢	g17 包含層	口径 14.2	外面：口縁部ナデ→部ミガキ、体部ハケ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 橙	口縁 3/4	外面に煤付着
174	002 -01	土師器 台付鉢	f19 包含層	底径 7.4	外面：ナデ→ハケ 底部内面：ナデ・シボリ	中・粗 良	にぶい 黄橙	脚部 完形	
175	049 -02	土師器 台付鉢	f19 包含層	底径 9.1	外面：ナデ・ハケ 内面：ナデ、脚部裾オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	
176	032 -04	土師器 台付鉢	h11 包含層	底径 9.0	外面：工具ナデ、脚部裾オサエ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	
177	046 -02	土師器 台付鉢	f17 包含層	底径 9.7	外面：ナデ・工具ナデ・オサエ 内面：ナデ・オサエ・ナデ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 7/8	
178	049 -03	土師器 台付鉢	f18 包含層	底径 8.4	外面：ハケ・ナデ 内面：ナデ	中・粗 並	にぶい 橙	脚部 完形	
179	065 -06	土師器 台付鉢	e14 包含層	底径 10.8	外面：ナデ・工具ナデ、脚部裾オサエ 内面：オサエ→ナデ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	
180	032 -05	土師器 台付鉢	e17 包含層	底径 8.4	ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	
181	045 -05	土師器 台付鉢	g17 包含層	底径 10.9	外面：ナデ・ハケ、脚部裾オサエ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	
182	037 -04	土師器 台付鉢	g17 包含層	底径 9.4	外面：ハケ、脚部ナデ 内面：ナデ、脚部ナデ・裾部オサエ	粗 並	灰褐	脚部 完形	
183	064 -06	土師器 台付鉢	f20 包含層	底径 9.3	外面：ハケ、脚部裾オサエ 内面：ナデ・オサエ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 3/4	
184	043 -02	土師器 台付鉢	g17 包含層	底径 10.1	外面：ナデ、脚部ハケ、脚部裾オサエ 内面：脚部ナデ、脚部側ナデ	中・粗 並	にぶい 黄橙	脚部 完形	

第 4 表　遺物観察表

番号	登録番号	種別	ｸﾞﾘｯﾄ目数	計測値(cm)	調整	胎土焼成	色調	残存度	備考
185	052 -02	土師器 皿	g14 仮食器	口径 12.4	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ナデ・オサエ	やや粗 並	橙	口縁 1/4	
186	025 -02	土師器 皿	g14 仮食器	口径 12.7	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	粗 良	黄橙	1/3	口縁部外面に煤付着
187	001 -36	土師器 皿	g11 仮食器	口径 15.2	外面：ナデ 口縁部内面：ナデ→ハケ、内面：ナデ→オサエ	やや粗 良	橙	口径 1/13	
188	010 -35	土師器 皿	f23 仮食器	口縁 15.7	外面：ハケ、口縁部：ナデ 内面：ナデ・オサエ、口縁部：ナデ	やや密 良	褐	口縁 1/8	外面に煤付着
189	022 -31	土師器 皿	g7 仮食器	口径 18.1	外面：口縁部ナデ、体部ナデ・オサエ 内面：ナデ	やや粗 良	にぶい黄橙	口縁 1/5	
190	048 -05	土師器 皿	g14 仮食器	口径 18.4	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	粗 良	にぶい橙	口縁 1/3	外面に煤付着
191	076 -01	土師器 皿	g14 仮食器	口径 17.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	やや密 並	にぶい橙	口縁 1/4	
192	022 -52	土師器 皿	g17 仮食器	口径 15.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ナデ・オサエ	やや粗 良	にぶい橙	口縁 1/4	外面に煤付着
193	066 -01	土師器 皿	g17 仮食器	口径 16.8	外面：ナデ、限部オサエ、体部ナデ・ケズリ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	やや粗 並	にぶい橙	口縁 1/6	
194	061 -01	土師器 皿	g14 仮食器	口径 12.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、体部ナデ	粗 良	にぶい橙	口縁 1/4	外面に煤付着
195	049 -01	土師器 皿	g18 仮食器	口径 16.3	外面：ナデ・オサエ	やや粗 良	にぶい橙	口縁 1/3	外面に煤付着
196	081 -01	土師器 皿	g17 仮食器	口径 16.4	外面：ナデ 内面：ナデ、工具ナデ・オサエ	粗 並	明褐	口縁 3/4	
197	058 -01	土師器 皿	g12 仮食器	—	外面：ハケ 内面：ナデ・オサエ	粗 並	明黄橙	体部 1/4	
198	080 -01	土師器 皿	g18 仮食器	口径 16.5 器高 21.7	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗 並	灰白	ほぼ完形	口縁部は歪みが大きい
199	007 -01	土師器 皿	f20 仮食器	口径 27.2	口縁部：ナデ、外面：縦方向ハケ 内面：横方向ハケ→ナデ	やや粗 良	にぶい黄橙	口縁 1/12	
200	072 -01	土師器 皿	g17 仮食器	口径 33.0	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ→ナデ 内面：ナデ	粗 並	橙	小片	
201	033 -02	土師器 皿	c21 仮食器	—	外面：ナデ・オサエ 内面：ケズリ	やや粗 並	にぶい黄橙	小片	
202	069 -02	土師器 小型皿	f18 仮食器	口径 10.5	外面：ナデ・ミガキ 内面：ナデ	やや密 並	にぶい褐	口縁 1/2	
203	024 -03	土師器 小型皿	e15 仮食器	復原 7.8 最大径15.7	外面：限部ナデ、体部上半ハケ・下半ケズリ・オサエ 内面：ナデ・オサエ	やや密 良	にぶい褐	体部 完形	
204	076 -04	土師器 小型皿	g10 仮食器	口径 8.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、体部ケズリ	やや密 並	褐	口縁 1/4	
205	052 -01	土師器 小型皿	f19 仮食器	—	外面：ナデ・オサエ 内面：ナデ	やや粗 並	灰黄	体部 完形	
206	043 -05	土師器 台	f19 仮食器	口径 17.6	ナデ	やや粗 並	橙	口縁 1/4	
207	014 -02	土師器 台	h9 仮食器	口径 17.7	ナデ	やや粗 良	にぶい黄橙	口縁 1/3	
208	001 -06	土師器 台	f18 仮食器	口径 20.4	ナデ	やや粗 良	にぶい黄橙	口縁 1/4	
209	003 -02	土師器 台	g18 仮食器	口径 18.0	ナデ	やや密 並	にぶい黄橙	口縁 1/4	
210	017 -03	土師器 台	f18 仮食器	口径 19.2	外面：ナデ 内面：ナデ、削痕文	やや密 並	にぶい橙	口縁 1/5	
211	003 -01	土師器 台	e18 仮食器	口径 12.4	外面：ナデ	やや粗 並	にぶい黄橙	口縁 1/3	外面に煤付着
212	073 -02	土師器 台	g17 仮食器	口径 14.8	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ナデ・オサエ	やや粗 並	黒褐橙	小片	
213	064 -02	土師器 台	g18 仮食器	口径 20.4	ナデ	やや密 並	にぶい橙	口縁 1/5	
214	078 -01	土師器 台	g15 仮食器	口径 15.5 復原 20.3	外面：ナデ 内面：ナデ・オサエ	やや粗 並	橙	1/3	最大径 22.0cm・底径 6.0cm 外面に煤付着
215	064 -03	土師器 台	f18 仮食器	口径 13.0	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・ヨコハケ・削痕文 内面：ハケ目ナデ、体部工具ナデ	やや粗 並	にぶい黄橙	口縁 1/6	外面に煤付着
216	047 -01	土師器 台	f17 仮食器	口径 18.5	外面：口縁部ナデ、体部ハケ 内面：ナデ	やや密 並	橙	口縁 1/4	
217	044 -01	土師器 台	g17 仮食器	口径 23.2	外面：鉄釉不明 内面：工具ナデ	やや粗 並	橙	口縁 1/3	
218	079 -01	土師器 台	f17 仮食器	口径 18.6	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・ケズリ→ナデ 内面：口縁部ナデ、体部工具ナデ・オサエ	やや粗 並	にぶい黄橙	1/2	最大径 33.0cm・底径 6.5cm 周縁にタテハケ・ヨコハケ・削痕文
219	077 -01	土師器 台	g15 仮食器	口径 17.2 復原 36.4	外面：ナデ、胴部タテハケ・ヨコハケ 内面：ナデ・オサエ	やや粗 並	にぶい黄橙	3/4	最大径 31.0cm・底径 7.5cm 周縁に格状線穿孔（径1.1cm）
220	095 -01	鹿石器 台	f20 仮食器	長径 11.8 短径 10.1	鹿表面の中央部に楕円形の窪み 側面は全て加工される	—	灰白	完形	厚さ 6.6cm
221	051 -01	鹿石器 台	f21 仮食器	長径 9.8 短径 8.2	側面に個かに使用痕 表面に厚1.5mm程度の使用痕	—	灰	完形	厚さ 3.4cm 重さ 430g
222	027 -04	石製品 鹿石	g18 仮食器	—	—	—	浅黄橙	一部	四面使用
223	027 -03	石製品 鹿石	f17 仮食器	—	—	—	灰	一部	三面使用（一面欠損）
224	018 -03	須恵器 杯蓋	g17 仮食器	口径 13.0 復原 5.1	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	やや粗 並	青灰	1/3	
225	018 -05	須恵器 杯蓋	g17 仮食器	口径 13.5 復原 4.7	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	やや粗 良	灰	1/2	
226	034 -01	須恵器 杯蓋	g18 仮食器	口径 12.3 復原 4.9	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	粗 良	灰	1/2	
227	019 -01	須恵器 杯蓋	g13 仮食器	口径 12.5	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	やや粗 良	灰	1/2	
228	040 -05	須恵器 杯蓋	g18 仮食器	口径 13.4 復原 4.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密 並	灰	1/3	
229	020 -05	須恵器 杯蓋	g18 仮食器	口径 12.3 復原 4.9	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗 並	灰	1/2	
230	029 -01	須恵器 杯蓋	e18 仮食器	口径 13.4 復原 5.0	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗 良	灰	1/4	

第５表　遺物観察表

番号	登録番号	種別	器形	計測値(cm)	調整	胎土・焼成	色調	残存度	備考
231	035 -02	須恵器 杯蓋	g12 包含層	口径 12.3 器高 4.8	外面：ナデ、天井部：ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰黄	2/3	
232	036 -05	須恵器 杯蓋	g19 包含層	口径 13.2 器高 5.0	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/3	
233	038 -02	須恵器 杯蓋	g18 包含層	口径 13.3 器高 5.0	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/12 完形	
234	044 -01	須恵器 杯蓋	f20 包含層	口径 12.2 器高 4.9	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	2/3	
235	045 -04	須恵器 杯蓋	g15 包含層	口径 12.4 器高 4.5	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/4	
236	039 -02	須恵器 杯蓋	g16 包含層	口径 13.8 器高 4.6	外面：口縁部ナデ、体部ナデ・ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/4	
237	042 -02	須恵器 杯蓋	g15 包含層	口径 12.3 器高 4.7	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	粗良	灰	1/2	
238	050 -06	須恵器 杯蓋	g16 包含層	口径 13.3 器高 4.8	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	3/4	
239	011 -02	須恵器 杯蓋	e16 包含層	口径 11.5 器高 4.7	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	密良	灰 (ﾌﾟﾚｰﾄ7)	1/2	
240	011 -06	須恵器 杯蓋	g14 包含層	口径 13.8 器高 4.7	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰黄	2/3	
241	040 -01	須恵器 杯蓋	g13 包含層	口径 12.4 器高 4.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	2/3	
242	044 -04	須恵器 杯蓋	g13 包含層	口径 13.1 器高 4.6	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	3/4	
243	036 -04	須恵器 杯蓋	g19 包含層	口径 12.4 器高 4.1	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰 (ﾌﾟﾚｰﾄ7)	7/8	
244	051 -02	須恵器 杯蓋	f19 包含層	口径 13.0	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰白	7/8	
245	043 -02	須恵器 杯蓋	g17 包含層	口径 12.2 器高 4.5	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/4	
246	038 -03	須恵器 杯蓋	g17 包含層	口径 13.5 器高 4.4	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰白	1/3	
247	059 -03	須恵器 杯蓋	g18 包含層	口径 12.4 器高 4.3	外面：口縁部ナデ、体部ナデ・ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/2	
248	031 -01	須恵器 杯蓋	f19 包含層	口径 12.8 器高 4.1	外面：ナデ、天井部：ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰 (ﾌﾟﾚｰﾄ7)	1/2	
249	059 -01	須恵器 杯蓋	g16 包含層	口径 12.9 器高 4.1	外面：口縁部ナデ、体部ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/4	
250	042 -04	須恵器 杯蓋	g15 包含層	口径 12.6	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗不良	黄赤橙	小片	
251	036 -03	須恵器 杯蓋	g15 包含層	口径 13.2 器高 4.0	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	赤灰	2/3	
252	018 -06	須恵器 杯蓋	g13 包含層	口径 11.5 器高 4.3	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/2	
253	040 -06	須恵器 杯蓋	g17 包含層	口径 5.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/3	
254	042 -03	須恵器 杯蓋	g15 包含層	口径 12.3	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	3/4	
255	043 -01	須恵器 杯蓋	g18 包含層	口径 12.8 器高 4.5	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	粗良	灰	小片	
256	043 -02	須恵器 杯蓋	g18 包含層	口径 12.8 器高 3.7	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	小片	
257	034 -02	須恵器 杯蓋	g18 包含層	口径 12.3 器高 3.7	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰白	1/4	
258	001 -03	須恵器 杯蓋	c23 包含層	口径 12.5 器高 3.0	外面：ナデ、天井部ケズリ 内面：ナデ	密良	明灰白 灰白	5/8	
259	010 -02	須恵器 杯身	i9 包含層	口径 11.0 器高 3.2	外面：ケズリ・ナデ 内面：ナデ	やや粗良	灰黄	1/3	
260	020 -03	須恵器 杯身	g14 包含層	口径 11.8 器高 4.9	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	2/3	
261	038 -05	須恵器 杯身	g16 包含層	口径 11.9 器高 4.9	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗不良	褐灰橙	7/8	受け部径 14.2cm
262	043 -05	須恵器 杯身	g18 包含層	口径 12.1 器高 4.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	粗良	灰	1/3	受け部径 13.8cm
263	038 -06	須恵器 杯身	g17 包含層	口径 10.4 器高 4.7	外面：口縁部ナデ、体部自然釉のため調整不明 内面：ナデ	やや密良	灰	1/3	受け部径 12.9cm
264	007 -03	須恵器 杯身	g16 包含層	口径 11.3 器高 5.1	外面：口縁部ナデ、付底下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/12 完形	受け部径 12.7cm 黒色が大きい
265	030 -02	須恵器 杯身	e19 包含層	口径 11.8 器高 4.7	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/3	受け部径 14.3cm
266	007 -04	須恵器 杯身	g14 包含層	口径 11.2 器高 4.9	外面：口縁部ナデ、付底下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/12 完形	受け部径 13.5cm
267	039 -02	須恵器 杯身	g16 包含層	口径 12.5 器高 4.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/4	受け部径 14.0cm 底部に「×」字状のヘラ記号
268	020 -02	須恵器 杯身	g17 包含層	口径 11.8 器高 4.4	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰	2/5	受け部径 13.6cm
269	041 -01	須恵器 杯身	g17 包含層	口径 10.8 器高 4.2	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	2/3	受け部径 13.0cm
270	038 -04	須恵器 杯身	g12 包含層	口径 12.8 器高 4.3	外面：ナデ・下半ケズリ 内面：ナデ	密良	灰	1/3	受け部径 12.7cm
271	032 -01	須恵器 杯身	c21 包含層	口径 11.2 器高 5.8	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	にぶい黄	2/3	受け部径 13.2cm
272	047 -05	須恵器 杯身	e20 包含層	口径 9.9	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	密良	灰	1/4	受け部径 13.0cm
273	041 -02	須恵器 杯身	g17 包含層	口径 10.0	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/3	受け部径 12.1cm
274	020 -01	須恵器 杯身	g14 包含層	口径 9.4 器高 5.0	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰 (ﾌﾟﾚｰﾄ7)	2/5	受け部径 13.0cm
275	011 -03	須恵器 杯身	f19 包含層	口径 10.3 器高 5.3	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや粗良	灰黄	1/3	受け部径 12.4cm
276	042 -05	須恵器 杯身	g15 包含層	口径 10.4	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/2	受け部径 13.4cm

第６表　遺物観察表

番号	登録番号	種別 器形	ｸﾞﾘｯﾄﾞ 連續	計測値 (cm)	属性	胎土 構成	色調	残存度	備考
277	045 -01	須恵器 杯身	g15 包含層	口径 11.2 器高 5.8	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	完形	受け部径 13.8cm
278	034 -06	須恵器 杯身	g15 包含層	口径 9.3	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/4	受け部径 12.5cm 底部にヘラ記号あり
279	097 -02	須恵器 杯身	g15 包含層	口径 12.9 器高 4.8	外面：口縁部ナデ、付部下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰褐	完形	受け部径 12.9cm 底部にヘラ記号
280	034 -04	須恵器 杯身	e17 包含層	口径 10.8 器高 4.7	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰白	1/2	受け部径 12.5cm 底部に「x」字状ヘラ記号
281	005 -03	須恵器 杯身	g15 包含層	口径 10.0 器高 5.0	外面：ナデ・下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/2	受け部径 12.8cm 底部に「x」字状ヘラ記号
282	001 -02	須恵器 杯身	e18 包含層	口径 8.9 器高 3.4	底部：ロクロケズリ ナデ	密良	にぶい黄橙	完形	受け部径 10.4cm
283	056 -01	須恵器 高杯脚	g18 包含層	口縁 12.6 器高 5.9	ナデ	やや密良	灰	脚部	小片
284	028 -04	須恵器 高杯脚	g16 包含層	口径 12.6 器高 5.2	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/2	つまみ径 2.6cm
285	030 -01	須恵器 高杯脚	g15 包含層	－	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	密良	灰	1/2	つまみ径 3.3cm
286	029 -01	須恵器 高杯脚	g16 包含層	口径 12.8	外面：ナデ、上半ケズリ 内面：ナデ	やや密並	灰	1/4	
287	041 -05	須恵器 肥手付鉢	g17 包含層	口径 17.4	外面：ナデ、波状文 内面：ナデ	やや密並	灰	小片	鉢目9本
288	035 -05	須恵器 肥手付鉢	e18 包含層	口径 18.8	外面：ナデ、杯部下半ケズリ、波状文 内面：ナデ	やや密良	灰	小片	鉢目10～11本
289	039 -04	須恵器 高杯	g17 包含層	口径 15.1	外面：ナデ、波状文 内面：ナデ	やや密並	灰	小片	杯部下半に波状文？ 鉢目7～11本
290	021 -01	須恵器 高杯	g16 包含層	口径 16.4	外面：ナデ、下半ケズリ、波状文 内面：ナデ	やや密並	灰	杯部 1/2	鉢目9本
291	022 -05	須恵器 高杯	g14 包含層	口径 16.0	外面：ナデ、下半ケズリ、波状文 内面：ナデ	ほぼ密良	オリーブ灰	口縁 1/8	鉢目5本
292	019 -06	須恵器 高杯	g17 包含層	底径 9.0	外面：ナデ・カキメ 内面：ナデ	やや粗不良	灰白	脚部 完形	方形三方スカシ
293	052 -04	須恵器 高杯	g17 包含層	底径 9.6	外面：カキメ、ナデ 内面：ナデ	やや密良	灰	脚部 1/2	方形三方スカシ
294	052 -05	須恵器 高杯	g16 包含層	底径 10.5	外面：カキメ、ナデ 内面：ナデ	やや密良	灰	脚部 1/4	短脚三方スカシ 脚部にヘラ描き記号
295	031 -03	須恵器 高杯	g17 包含層	底径 10.8	ナデ	密良	灰	小片	方形四方スカシ 脚部にヘラ記号
296	044 -06	須恵器 高杯	f15 包含層	底径 11.6	ナデ	やや密良	灰	脚部 1/4	
297	097 -01	須恵器 高杯	g17 包含層	口径 10.8 器高 8.8	外面：口縁部ナデ、付部下半ケズリ、脚部カキメ 内面：ナデ	やや密並	灰	5/8	受け部径 13.0cm
298	035 -03	須恵器 高杯	f17 包含層	底径 9.0	外面：カキメ・ナデ 内面：ナデ	やや密良	灰	脚部 1/2	
299	019 -05	須恵器 高杯	f17 包含層	底径 9.0	ナデ	やや密良	灰	脚部 完形	
300	019 -03	須恵器 高杯	g17 包含層	底径 9.6	ナデ	やや密並	灰	脚部 2/3	
301	035 -04	須恵器 高杯	g16 包含層	底径 8.5	ナデ	やや密不良	灰白	脚部 1/3	円形三方スカシ
302	041 -04	須恵器 高杯	g16 包含層	底径 9.4	ナデ	やや密並	灰	脚部 1/4	円形三方スカシ
303	044 -05	須恵器 鉢	f18 包含層	口径 8.2	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	2/5	
304	042 -01	須恵器 鉢	g15 包含層	底径 3.0	外面：ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ	やや密良	灰	1/2	
305	039 -03	須恵器 肥手付鉢	g16 包含層	口径 8.4 器高 5.8	外面：ナデ、下半ケズリ、波状文 内面：ナデ	やや粗並	灰	1/2	鉢目4本
306	019 -04	須恵器 肥手付鉢	g17 包含層	口径 8.9	外面：内面ナデ、下半ケズリ→ナデ、波状文 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/4	
307	096 -02	須恵器 肥手付鉢	f17 包含層	口径 11.0 器高 8.3	外面：ナデ、体部下半静止ケズリ、底部ヘラ切り後ナデ、波状文 内面：ナデ	やや粗並	灰白	3/4	波状文はやや緩 鉢目7～8本
308	096 -01	須恵器 壺	f17 包含層	口径 10.3 器高 10.8	外面：ナデ、波状文 内面：ナデ	やや密並	灰白	ほぼ完形	最大径 11.8cm
309	002 -03	須恵器 瓶	f19 包含層	口径 10.7 器高 10.5	外面：ナデ・下半ケズリ、波状文・刺突文 内面：ナデ	やや粗良	灰	1/2	内底底部に有機物？の付着 鉢目11本
310	014 -01	須恵器 瓶	g17 包含層	口径 9.2	外面：ナデ、下半タタキ、波状文・沈線 内面：ナデ	密良	灰	2/3	上から鉢目6本・11本・7本
311	014 -02	須恵器 瓶	g18 包含層	口径 9.5	外面：ナデ、波状文 内面：ナデ	密良	青灰	口縁 完形	上から鉢目4本・8～9本
312	037 -03	須恵器 瓶	g12 包含層	最大径11.0	外面：ナデ、下半ケズリ、沈線・刺突文 内面：ナデ	やや粗良	灰白	体部 4/5	
313	045 -04	須恵器 瓶	f19 包含層	最大径13.0	外面：ナデ、体部下半ケズリ、波状文・沈線 内面：ナデ	やや密並	灰赤	体部 1/3	肩部波状文鉢目4本
314	031 -01	須恵器 瓶	g17 包含層	最大径15.5	外面：ナデ、下半タタキ、沈線・刺突文 内面：ナデ・オサエ	密良	青灰	体部 完形	
315	028 -01	須恵器 瓶	f20 包含層	最大径17.7	外面：ナデ、底部ケズリ→ナデ、沈線・波状文 内面：ナデ・オサエ	やや粗良	灰	体部 完形	鉢目6本
316	038 -01	土師器 壺	g17 包含層	口径 20.4	ナデ	やや密並	にぶい赤褐	口縁 1/3	

第7表　遺物観察表

Ⅳ 結　語

今回の調査では、主として包含層から多量の遺物が出土した。遺物は、僅かに弥生時代後期から古墳時代初頭の土器を含むものの、大半は古墳時代後期の土器であった。

1．弥生時代後期から古墳時代初頭の土器について

弥生時代後期から古墳時代初頭のものには、受口状口縁台付甕やいわゆるパレス壺や樽ヶ坪型壺が出土している。樽ヶ坪型壺については、図化できなかったもので口縁部の羽状刺突文が見られるものが3点確認できた。パレス壺は浅井和宏氏の分類[1]のE類Form Ⅰにあたり、樽ヶ坪型壺は北村和宏氏の分類[2]のC・D類にあたるものである。パレス壺や樽ヶ坪型壺については、三重県において出土したものでは最南部に属するものである[3]。しかし、和歌山県串本町の笠嶋遺跡[4]で東海系の高杯が出土していることを考えると、こうした壺類が紀伊半島東岸にさらに分布していることも想定される。

2．須恵器模倣杯について

今回の調査で注目される土器として、須恵器模倣杯が挙げられる。第2次調査で出土した土師器杯では、胎土が橙色を呈するものと表面を赤彩や黒彩する須恵器模倣杯がある。前者は主体を占めるもので、高杯などの他の土師器と胎土が共通しており、在地の土器と考えられる。一方後者は須恵器を模倣した杯であり、表面に赤彩や黒彩を行うものは、東紀州地域や伊勢湾岸では見られないものである。上記のような特徴よりこれらの土器は、いわゆる「鬼高式」土器と考えられる。時期については、ほとんどが赤彩されるもので、小沢洋氏の編年[5]の0～6期のものであろう。73・75・76・81・83・87は厚手のもので0～1期（5世紀中葉～後葉）、68・69・70は須恵器杯蓋にみられるような稜線を持つもので1～2期（5世紀末葉～6世紀前葉）にあたると考えられる。70～72は口縁部が内傾するもので5期（6世紀末～7世紀初頭）、82は扁平な器形のもので6期（7世紀前葉）と考えられる。

こうした土器は、上総地域で見られるものによく似ている。ただ、静岡県菊川町林光寺遺跡[6]や同県静岡市川合遺跡[7]など駿河地域からも須恵器模倣杯が出土している。遺瀬遺跡で出土したものが関東地方から直接搬入されたものというよりは、駿河地域を経由もしくは間接的に搬入された可能性が考えられる。

これらの他に、図化できない小片のもので、100片以上の赤彩された土器が出土している。「鬼高式」と考えられるものは杯のみで、高杯や壺など他の器種については確認できなかった。また、84～86の鉢も、在地の土器とは明らかに異なるもので、搬入土器であると考えられる。詳しくはわからないが、関東以東のものではないかと思われる。

3．須恵器について

須恵器は、田辺編年[8]のTK208～TK47型式併行期のものと考えられる。全体的に胎土や調整とも精緻なつくりで、大阪府南部のいわゆる「陶邑」窯で生産されたものの可能性が考えられる。しかし、256～258のように扁平な形状をもつ杯蓋で猿投窯産とみられるものや、307の把手付椀のように厚手で調整・施文とも雑なものでも在地もしくは他地域で生産されたと考えられるものなどもあり、須恵器についても各地から搬入されいる状況が窺える。

4．製塩炉について

今回の調査では、SF4で焼土を含む炭溜まり遺構が確認された。上部が削平されており、第1次調査で確認された炉跡のような構築物がないため、積極的に製塩炉とは言い切れないが、おそらく一連のものではないかと考えられる。SF4の南西1m程の所には、多量の炭が溜まったSK9が存在し、これがSF4から掻き出されたものである可能性がある。そうであるならば、SF4で盛んに火を用いていたことになり、SF4が炉跡であった可能性が高い。また今回の調査では、周辺から土釜片が小片ではあるが、38片出土している。

5．小結

遺物は古墳時代後期のものが大半を占める。これらは、調査区中央の台地部分から西半の落ち込み部分にかけての地域で多量に出土したものであるが、第１次・２次調査を通じて、この時代の遺構はほとんど確認されなかった。遺物の構成や出土量から考えて、調査区周辺の砂堆上に集落が存在していたと考えられる。第２次調査で確認された落ち込みは、集落の縁辺部で、これらの土器は集落から斜面に向けて投棄されたものであろう。

出土した土器を概観すると、弥生時代から古墳時代にかけて、関東もしくは駿河地域からや、近畿地方・東海地方など様々な地域から搬入されている。また、脚部に貫通しない円孔をもつ高杯は中勢地域で見られるものであり、肩部にタテハケと横線文を有する壺は亀山市山城遺跡[7]や鈴鹿市神大寺遺跡[8]などで見られるなど、伊勢地域との繋がりも窺える。

こうしたことから、道瀬遺跡では広範囲の地域と活発な交流を行っていたことが窺える。これには、調査区の西側に潟湖跡と思われる低地部があることが注目される。東紀州地域の沿岸部には潟湖や潟湖の跡と見られる地域が多く存在しており、当遺跡もこうした潟湖を湊として利用した集落であったと考えられる。

註

（1）浅井和宏「〈宮廷式土器〉について」「欠山式とその前後」第３回東海埋蔵文化財研究会、1986

（2）北村和宏「〈付論〉柳ヶ坪壺について」『古代』第86号、早稲田大学考古学会、1988

（3）笠嶋遺跡では弥生時代後期から布留期にかけて伊勢湾系の高坏が圧倒的な量を占める。また、東海地方東部駿河湾沿岸の土器も出土している。
辻林浩・黒石哲夫『笠嶋遺跡－串本中学校校舎建築に伴う発掘調査報告－』和歌山県文化財センター、1991

（4）小沢洋「上総地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル』342号、ニュー・サイエンス社、1992

（5）塚本和宏ほか『林光寺遺跡発掘調査報告』菊川町教育委員会、1999

（6）伊林修一ほか『用合遺跡八反田地区Ⅱ』静岡県埋蔵文化財調査研究所、1995

（7）田辺昭三『須恵器大成』角川書店、1981

（8）山田猛ほか『山城遺跡・北瀬古遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1994

（9）高見宣雄「神大寺遺跡」『昭和55年度県営圃場整備事業地域　埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1991

（10）柳ヶ坪壺は、海山町船越遺跡でも出土している。
平松良雄「畿内の壺－柳ヶ坪型壺の使用例をめぐって－」『橿原考古学研究所論集』第十一、吉川弘文館、1994

参考文献

・長谷川厚「古墳時代後期上器の研究（３）－房総地域の諸様相について」『神奈川考古』27号、1991

・長谷川厚「古墳時代後期土器の生産について－特に神奈川県内の古墳時代後期土師器の生産構造について－」「古代」第92号、早稲田大学考古学会、1991

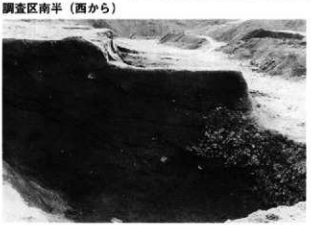
図版1　遺構写真

比幾海岸より道瀬浦を望む

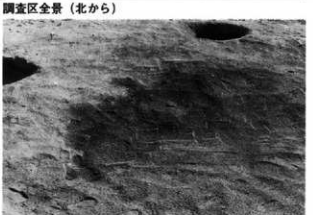
調査前風景（南西から）

調査区南半（西から）

調査区全景（北から）



落ち込み部土層断面（北から）



ＳＦ４（北から）

ＳＫ14（東から）

土器集中部（西から）

図版2　遺物写真

1

10

22

3

11

25

30

33

43

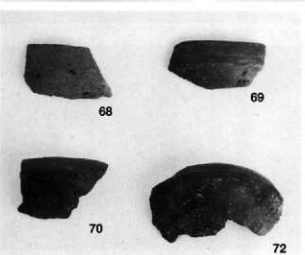
58

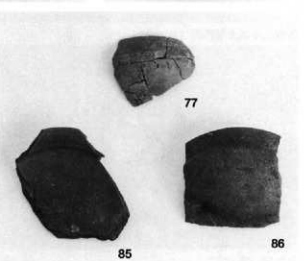
66

71

90

92


68
69
70
72


77
85
86

図版3　遺物写真

167

170

173

170

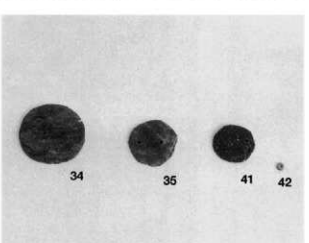
198

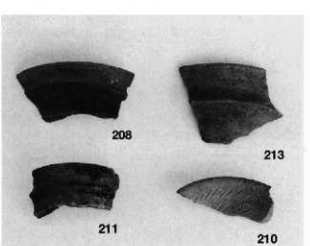
203

219

214

218


34
35
41
42


208
213
211
210

図版4　遺物写真

233

264

286

242

266

297

244

271

305

249

276

307

252

277

308

254

280

258

282

315

報告書抄録

ふりがな	どうぜいせき　だいにじ　はっくつちょうさほうこく
書名	道瀬遺跡（第２次）発掘調査報告
副書名	平成10年度熊野灘臨海都市公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	２０７
編著者名	新名　強
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503番地　℡.0596-52-1732
発行年月日	2000年　3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
道瀬遺跡	三重県北牟婁郡紀伊長島町道瀬字新田	24514	12	34度10分05秒	136度17分52秒	1998.10.12～1998.12.25	1600㎡	平成10年度熊野灘臨海都市公園整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道瀬遺跡 （第２次）	集落跡	弥生時代		壺	
		古墳時代	落ち込み 土坑	パレス壺・土師器杯・高杯・台付甕・壺、須恵器杯・高杯・壺・甑、有孔円盤	包含層より多量の土器が出土。赤彩された関東系の須恵器模倣杯も出土。
		鎌倉時代	焼土面		

平成12(2000)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年10月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告２０７

平成10年度紀伊半島南部古墳整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

道瀬遺跡（第２次）発掘調査報告

―北牟婁郡紀伊長島町道瀬所在―

2000年（平成12年）3月31日

編集
発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　文化印刷有限会社